

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称		
款	項	目	大	中	小			
11	01	03	26	05	30	御幸公園梅香事業		
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先
			633200		道路公園センター 整備課		鈴木	72560

事業の概要									
事業の概要		かつて幸区に梅林の名所があった歴史を活かし、市制100周年に向け、梅の植樹による梅林の復活による区の魅力向上とともに、梅まつりの開催、歴史文化の伝承などを市民との協働で推進します。							
実施期間		事業開始年度 平成27年度		事業終了年度 平成37年度		予算中事業		地域資源活用事業	
地域の課題と現状		御幸公園のある小向一帯は、明治時代に梅の名所として有名になり、明治天皇が行幸された歴史があります。こうした区の地域資源を活かしながら様々な主体と協働・連携により魅力を高め、また、さらなる地域住民の参加を促すため、区民との協働による取組をより活性化する必要があります。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	12,623(12,693)	11,997	12,613(12,864)	12,616	13,910(13,906)	11,950	10,477	9,260
財源内訳	国庫支出金								
	市債								
	その他特財 一般財源	4,000	3,250	4,000	2,821	4,000	3,517	1,896	696
		8,623(8,693)	8,747	8,613(8,864)	9,795	9,910(9,906)	8,433	8,581	8,564

計画 (Plan)	
事業の目的	梅林を市民と復活させるとともに、御幸公園が憩いの場、集いの場となり地域コミュニティの活性化につながることを目指します。
今年度の事業の取組内容	御幸公園梅香事業推進会議を開催し、進捗状況の確認及び課題の抽出・検討を行うとともに、梅林の復活を目指した梅の植樹、地域への愛着を深めるための写真展や川柳コンクール、地域との協働による観梅会を開催します。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等		御幸公園梅香事業推進会議の開催3回(書面開催、11/18、2/27)。写真展の開催3回(区役所、日吉出張所、中原区役所)。河川財団の助成金や寄附・募金を活用した梅の植樹(10本)。観梅会は、新型コロナウイルス感染症予防対策として、令和2年度の実績を踏まえつつ、学校や地域、様々な団体等と連携したイベントを縮小し、密を避けながら梅を鑑賞することができるプログラムと合わせ開催(期間:2/19~2/27、観梅会案内チラシのデザインは、総合科学高等学校生徒が作成)。梅の植樹のための寄附募集(R3寄附・募金額:296千円)。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標			H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位
	1	活動指標	講演会参加者数 (令和元年度の講演をもって事業終了)	目標	50	50	—	—	人
				実績	87	73	—	—	
	2	活動指標	梅の植樹	目標	30	10	10	10	本
				実績	55	49	13	10	
3	成果指標	寄附受付額	目標	1,000	1,000	1,000	1,000	千円	
			実績	1,050	621	1,017	296		
4	活動指標	観梅会における地域活動団体等の参加	目標	6	6	7	7	団体	
			実績	8	8	—	—		

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		新型コロナウイルス感染症に対する行動変容へ適切に対応するとともに、予防を徹底しながら市民及び様々な団体とのコミュニティを形成し、事業を推進することが求められます。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) 令和 3 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(R 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		コロナ禍で開催した令和2年度観梅会の取組と実績を踏まえて、観梅会の計画を見直しました。 総合計画第3期実施計画の策定や市制100周年に向けて、御幸公園梅香事業の方向性を確認し、必要に応じた見直しを行いました。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、地域活動団体等による観梅会でのプログラムは中止としましたが、別の機会を設けるなど、連携を維持しており、コミュニティも形成されていることから、依然、市民ニーズはあるものと考えます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、寄附受付額は目標額に届いていないものの、事業推進会議、写真展及び川柳コンクールを実施したほか、影響を最小限に抑えるため工夫を凝らしたイベントの開催など、成果指標は概ね達成されており、有効性はあがっていると考えます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	事業費については、引き続き河川財団の助成金や「うめかおる寄附・募金」を活用するなど、一般財源の縮減を図っていきます。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性 新型コロナウイルス感染症に対する新たな生活様式を踏まえた地域コミュニティの形成等、取組手法の見直しを視野に入れ、区制50周年、市制100周年に向けて、梅林の復活や保全、地域住民や学校等との連携、歴史・文化の継承に取り組みます。 また、様々な主体とのさらなる協働・連携に向け、市民協働による梅林の管理等サポーターの組織づくりを進め、地域資源を活かした魅力あるまちづくりを進めていきます。		

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	05	15	音楽のまち推進事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			631700		まちづくり推進部 地域振興課		真田	62356	

事業の概要

事業の概要		ミュージアムシンフォニーホールなど、区民が身近な場所で音楽に親しめる環境をつくり、「音楽のまち・かわさき」を推進します。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		地域資源活用事業			
		平成9年度	—						
地域の課題と現状		幸区には世界でも有数の音響設備を持つミュージアムシンフォニーホールがあり、音楽に対する区民の関心も高く、今後とも身近な場所で気軽に音楽に親しむことができる環境を整備するとともに、演奏発表の機会を音楽活動団体へ提供し、全市をあげて取り組んでいる「音楽のまち・かわさき」を推進していく必要があります。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	3,053	2,462	3,905(3,976)	2,490	3,819	2,457	3,405	3,446
財源内訳	国庫支出金								
	市債								
	その他特財								
	一般財源	3,053	2,462	3,905(3,976)	2,490	3,819	2,457	3,405	3,446

計画 (Plan)

事業の目的	幸区内の施設において区民が身近な場所で音楽に親しめる環境をつくるためコンサートを開催し、「音楽のまち・かわさき」を推進します。
今年度の事業の取組内容	・区民が身近な場所で良質な音楽を楽しめる「夢こんさあと」を年8回、ミュージアムシンフォニーホールで開催する区民音楽祭「さいわいハナミズキコンサート」を年1回、心のバリアフリーをテーマにした「はび☆こん〜誰もが幸せになるコンサート〜」を年1回開催します。

実施結果 (Do)

上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり	4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等	<p>・「夢こんさあと」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、8月公演は無観客開催(アーカイブ配信)としましたが、それ以外の7公演については、観客席数の制限、事前申込制などの感染症対策を講じた上で開催しました。また、より多くの区民に安心して音楽を楽しんでいただく機会を提供するために、幸区チャンネル(YouTube)にて毎回アーカイブ配信を行いました。</p> <p>・「さいわいハナミズキコンサート」は、ミュージアムシンフォニーホールで令和4年2月13日(日)に開催。観客数を定員の半程度に制限し、全席指定にするなど、感染症対策を講じた上で開催しました。区制50周年と第15回を記念して、ゲストとして川崎市市民文化大使の大谷康子さんを迎え、幸区民を中心に約700名の方に、幸区地域資源であるミュージアムシンフォニーホールで良質な生の音楽を提供することができました。</p> <p>・「はび☆こん〜誰もが幸せになるコンサート〜」は、「心のバリアフリー」をテーマにミュージアムシンフォニーホールにて11月13日(土)開催。開催時間の短縮、観客席数の制限などの感染症対策を講じた上で開催。演奏者は障害のある音楽家を含む4組。川崎市文化財団主催のバラムーメントの取組を推進する「colors かわさき展」やオンラインピック・パリンピック推進室、田島支援学校の生徒にチラシのイラストを描いてもらうなど、さまざまな機関と連携しました。来場者アンケートの結果「とても良かった」「良かった」の合計は100%で、多くの来場者の満足と事業目的に対する共感を得ることができました。</p>							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位	
	1	成果指標 夢こんさあと来場者数	目標	1,200	1,300	1,200	1,200	人
			実績	1,200	1,200	149	534	
	2	成果指標 さいわい街かどコンサート来場者数 ※実施内容変更により、「はび☆こん」来場実績を記載	目標	1,000	1,000	1,000	1,000	人
			実績	240	280	230	200	
3	成果指標 さいわいハナミズキコンサート来場者	目標	800	1,200	1,200	1,200	人	
		実績	830	中止	—	700		
4		目標						
		実績						

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化	幸区は、高齢化率が高く、コンサート来場者の現状においても高齢者が多いため、来場者のニーズに合わせた運営が必要とされています。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 30 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から) 具体的見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載 「はび☆こん〜誰もが幸せになるコンサート〜」は、「さいわい街かどコンサート」を改め、事業目的に「心のバリアフリー」を掲げ、バラムーメントの取組を推進する「colors art fair」と連携して平成30年度から実施。出演者は障害がある個人音楽愛好家や主旨に賛同するプロ・アマの音楽家など。多くの来場者の満足と共感を得ています。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	さいわいハナミズキコンサートは定員650名に対し、約750名の応募があり、事業のニーズは高いと考えます。また、「音楽のまち・かわさき」を推進していく上でも重要な取組であると考えます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度もコンサートの様子を幸区の公式チャンネルでアーカイブ配信するなどより多くの区民に音楽を楽しんでいただける環境を整備しており、成果は上がっていると考えます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	それぞれ事業目的が異なる3つの音楽事業を、各事業の対象等が重なることなど効率的・効果的に実施し、「音楽のまち・かわさき」の推進を図るとともに、引き続き来場者の満足度を高める工夫を検討していきます。	

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	より多くの区民が身近な場所で気軽に音楽に親しめる環境をつくるため、事業目的がそれぞれ異なる3つの音楽事業を幸区内の様々な施設において開催していくことは重要です。オンライン配信などコロナ禍における音楽イベントの新たな手法を取り入れつつ、引き続き来場者のニーズを捉えながら満足度を高めるよう運営の見直し・改善を図りながら事業を進めていきます。

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	05	10	さいわいものづくり体験事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			631700		まちづくり推進部 地域振興課		齋藤	62355	

事業の概要

事業の概要		科学技術関係機関やものづくり関連施設が集積した幸区の特徴を活かし、新川崎地区の研究施設や区内企業等との協働・連携で科学体験教室を開催することにより、青少年がものづくりの基礎となる科学技術を体験的に学ぶとともに、地域との結びつきを深めます。							
実施期間		事業開始年度 平成25年度		事業終了年度 —		予算中事業		地域資源活用事業	
地域の課題と現状		幸区の魅力のひとつとして、地域資源である研究開発施設等の存在を多くの区民に周知し、理解及び関心を深める必要があります。また、若い世代の科学技術への関心が求められる中で、青少年向けに興味深いテーマを提供して教室を開催し、継続的に科学やものづくりを体験してもらうことは非常に重要です。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度	
	事業費	1,357	1,249	1,422	1,281	1,759(1,751)	95	1,759	1,572
	財源内訳								
	国庫支出金								
	市債								
その他特財	33	8	33	9	33	5	33	7	
一般財源	1,324	1,241	1,389	1,272	1,726(1,718)	90	1,726	1,565	

計画 (Plan)

事業の目的	研究開発施設やものづくり関連施設が集積した幸区の特徴を生かし、これらの地域資源を活用した科学技術体験教室や科学体験イベントを、企業や団体と連携して開催することにより、青少年がものづくりの基礎となる科学技術を体験的に学ぶとともに、地域と研究開発施設等との連携を深めます。
今年度の事業の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・慶應義塾大学新川崎タウンキャンパス、新川崎・創造のもり地区の研究施設、区内企業及び市民活動団体等と連携し、青少年がものづくりの基礎となる科学技術を体験的に学ぶことができるイベント「科学とあそぶ幸せな一日」(年1回)を開催します。 ・テーマを絞った体験教室「さいわいトライサイエンス」「さいわいテクノ塾」(各年1回、区内企業と連携)を開催します。

実施結果 (Do)

上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った								
取組内容の実績等	・「科学とあそぶ幸せな一日」(日程:8月21日(土)、会場:新川崎・創造のもり)は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりましたが、ホームページ上で「おうちで楽しもう! 科学とあそぶ幸せな一日」を企画し、慶應義塾大学や関係企業、市民活動団体などの協力を得て、40以上のコンテンツ(出展者数:24団体)を掲載し、子どもたちが科学を楽しく学べる環境を創出しました。また、慶應義塾大学と協働でスペシャルプログラムとしてオンラインセミナー(参加者:46人)及びキャンパスツアー(参加者:38人)を企画し、コロナ禍においても可能な手法を検討し、創意工夫して事業を実施しました。 ・さいわいトライサイエンス体験教室(日本IBM株と協働で実施)は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりましたが、「おうちで楽しもう! 科学とあそぶ幸せな一日」に、日本IBM株より提供いただいた2つの実験動画を掲載しました。 ・さいわいテクノ塾「LEDでひかるクリスマスランタンを作ろう!」(日程:12月11日(土)、会場:東芝未来科学館、定員40名)は、東芝未来科学館の協力のもと、LEDでひかるスポットライトの仕組みを学びながら、クリスマスランタンを制作する講座を実施しました。定員の6倍以上の申込みがあり、大盛況でした。 ・事業全体を通し、区内企業、市民活動団体、大学とも連携を図り、研究開発施設等が集積した幸区の特徴を活かした事業を展開しています。									
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標				H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位
	1	成果指標	科学とあそぶ幸せな一日参加者数(保護者含む)	目標	1,300	1,300	1,300	1,300	人	
				実績	1,200	1,400	中止	中止		
	2	成果指標	さいわいトライサイエンス体験教室参加者数(応募数)	目標	36	40	40	40	人	
				実績	32(38)	中止	中止	中止		
3	成果指標	さいわいテクノ塾参加者数(応募数)	目標	40	40	40	40	人		
			実績	28(31)	30(42)	24(40)	40(252)			
4	成果指標		目標							
			実績							

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化		幸区には科学技術関係機関やものづくり関連施設が集積しており、新たな企業等も参加しています。少子高齢化が進む中、子育て世代の区民が幸区に愛着を持ってもらえるよう、その資源を最大限活用して、魅力的な青少年向けの事業を行うことが重要と考えられます。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) R 2 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(年度から) 具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載 平成30年度まで実施していた新たな企業等との科学体験事業については、単独開催から「科学とあそぶ幸せな一日」への出展に統合を図り、効率的な手法とするとともに、出展者・参加者双方の満足度の向上を図りました。また、令和2年度から、同時に開催していた「さいわい子どもエコフェア」も「科学とあそぶ幸せな一日」に事業統合しました。新型コロナウイルス感染症の影響によりイベントは中止となったものの、オンライン上での様々なコンテンツの掲載やオンラインセミナーの開催など、コロナ禍でも可能な手法を検討し事業を実施しました。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	新川崎・創造のもり地区をはじめ、幸区には科学技術研究機関やものづくり関連施設が集積しており、これら地域資源を活用した取組は今後ますます重要となってくると考えます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	イベントへの参加者希望者は非常に多く、また、大学・企業・市民活動団体等の協力先も増えており、成果は上がっているものと考えます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	委託団体等と協議を行い、役割分担の見直し等により、事務負担軽減に向けた改善を進めています。	

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	子ども向け科学イベントは、企業、市民活動団体、大学、行政との協働で行っている事業であり、企業や大学等にとっても地域への社会貢献として有意義な取組となっています。また、来場者アンケートの結果からも科学イベントへの関心は高く、引き続き需要が見込まれます。昨年には新川崎・創造のもりにあるKBICに、量子コンピュータ・システムが設置されるなど、新川崎・創造のもりを中心に、幸区には科学技術研究施設が集積しており、これら地域資源を活用した事業展開を推進していくことが重要であると考えます。

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	05	40	花と緑のさいわい事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			631700		まちづくり推進部 地域振興課		平山	62355	

事業の概要									
事業の概要		区内の緑化推進と区民の緑化意識の高揚を図るとともに、区民同士の交流を促進するため、花と緑の潤いあるまちづくりを推進します。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業	地域資源活用事業				
		平成9年度	—						
地域の課題と現状		幸区には大きな公園や緑地が限られているため、小規模な公園等で緑化推進を図ることも重要な取組課題の1つです。事業推進に当たっては、区民同士の交流を図るため、地域を巻き込んだ取組が必要です。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	3,627(3,575)	3,493	3,664	3,620	3,765	3,534	3,694	3,139
	財源内訳								
	国庫支出金								
	市債								
	その他特財	25	12	25	33	25	24	33	30
	一般財源	3,602(3,550)	3,481	3,639	3,587	3,740	3,510	3,661	3,109

計画 (Plan)	
事業の目的	区内の緑化推進と区民の緑化意識の高揚を図るとともに、区民同士の交流を促進するため、花と緑の潤いあるまちづくりを推進します。
今年度の事業の取組内容	区民ボランティアグループ「さいわい花クラブ実行委員会」を中心に、小中学校や地域の企業との協働による公共花壇の花植えおよび緑化推進につなげるイベント等を行います。近隣の小学校と市民活動団体「さいわい加瀬山の会」と協働で「夢見ヶ崎公園花植え事業」を実施します。また、幸区緑化活動団体支援事業の実施等、区民が行う緑化活動を支援することにより、区民の緑化意識の高揚と花と緑の潤いのある明るいまちづくりを推進します。 「公共花壇花植え事業」「夢見ヶ崎動物公園花植え事業」「幸区庁舎前花いっぱい事業」をそれぞれ2回ずつ実施、「緑化活動団体支援事業」を年1回実施するほか、植物に興味を持つきっかけとなるような、区民向けの講習会を企画・実施します。

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度	3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり		4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等	<p>・大師堀公共花壇では、春秋年2回の花植えを下平間小学校・塚越中学校、さいわい花クラブと連携し、児童・生徒と一緒に植え付けを実施しました。</p> <p>・夢見ヶ崎動物公園花植え事業は、春秋年2回の花植えを近隣の4つの小学校と地域活動団体「さいわい加瀬山の会」と協働で、植え付けを実施しました。</p> <p>・「さいわい花クラブ」の活動周知と人材確保を目的に、12月3日(金)に講習会「季節(お正月)の寄せ植え講座」を実施しました。定員(30名)を大幅に上回る応募があり、さいわい花クラブへの参加希望者も獲得しました。</p> <p>・緑化活動団体支援事業は、今年度から配布を年1回に変更し、10月に43団体へ花苗等を提供しました。</p> <p>・多様な主体との協働により事業を実施するとともに、各種事業を通じて区民の交流促進が図れました。</p>									
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標		H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位		
	1	活動指標	さいわい花クラブ活動参加延べ人数	目標	270	270	270	270	人	
				実績	270	270	270	270		
	2	活動指標	緑化活動団体支援事業における花苗配布団体数(年間延べ)	目標	70	80	80	40	団体	
				実績	83	82	81	43		
3	成果指標	「さいわい花クラブ実行委員」と協働で実施する講習会への参加者数(応募数)	目標	50	50	50	50	人		
			実績	24	41(46)	30(85)	30(75)			
4	活動指標	幸区庁舎前花いっぱい事業年間実施回数(花苗等の物品の予算は区役所管理運営費)	目標	2	2	2	2	回		
			実績	2	2	2	2			

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	環境への関心が高まり、地球温暖化対策の観点からも、緑化活動への取組は引き続き重要と考えます。事業を遂行するに当たり重要な役割を果たす「さいわい花クラブ実行委員会」は、中心となるメンバーの意識やスキルも向上し、定例会議を自主運営し、幸区市民活動コーナー利用者の会に登録するなど市民活動団体として主体性を持って進めています。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) 3年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(令和3年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	緑化活動団体支援事業について、業務の効率化と予算の適正化を踏まえ、令和3年度から年2回の配布から年1回への配布に見直しを図りました。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	環境への関心が高まっている中、区内の緑化推進及び区民の緑化意識高揚を図るには重要な取組と考えます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	さいわい花クラブ実行委員については、自ら運営に取り組み、メンバー間で緑化意識の高揚や交流を促進するなど意欲的に活動を行い、新たな人材の確保にもつながっています。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	より区民が主体となって活動できるよう、引き続き支援を行っていきます。また、区内の緑化がより多くの区民の手によって効果的に広げられるよう見直しを図りながら事業を推進していきます。	

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	環境への関心が高まり、地球温暖化対策の観点からも、緑化活動への取組は引き続き重要と考えます。事業目的や方向性は維持するものの、業務の効率化や予算の適正化を踏まえ、緑化活動団体支援事業については見直しを図りました。今後も社会環境の変化等を踏まえながら、適宜見直しや改善を図り、効率的・効果的に事業を継続することが適切であると考えます。

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	05	60	地域の魅力発信事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			631650		まちづくり推進部 企画課		名藏	62125	

事業の概要									
事業の概要		幸区の地域資源である夢見ヶ崎公園について、同公園を中心とした加瀬山周辺の魅力を高め、区民が集い、憩いの場となる空間づくりを推進します。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		地域資源活用事業			
		平成23年度	—						
地域の課題と現状		建設緑政局が主体となり、動物公園の活性化について検討を進めていますが、引き続き関係局と連携・協力して夢見ヶ崎公園の魅力向上を図っていく必要があります。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	725(683)	657	1,946(1,795)	1,678	1,729(1,952)	1,707	1,696(1,996)	2,287
財源内訳	国庫支出金								
	市債								
	その他特財								
	一般財源	725(683)	657	1,946(1,795)	1,678	1,729(1,952)	1,707	1,696(1,996)	2,287

計画 (Plan)	
事業の目的	区民会議の提言を踏まえ、区の貴重な地域資源である夢見ヶ崎公園の魅力高め、活用を図る取組を推進します。
今年度の事業の取組内容	<p>①区民車座集会(H29年12月実施)を踏まえ、公園周辺で活動する団体や企業、町内会、動物公園サポーターなどが情報交換し、新たな「つながり」の構築や賑わいの創出に向けた意見交換を行う「ゆめみらい交流会」を開催するとともに、これを踏まえた取組を実施します。</p> <p>②新鶴見信号場をはじめ、区内に点在する鉄道スポットの魅力を感じてもらおうとともに、区への愛着や誇りを高めるため、モバイルスタンプラリー等のイベントを実施します。</p> <p>③幸区にゆかりの深い絵本作家のかこさとしさんが幸区で行っていた地域活動の功績など区とのつながりを広く区民に伝えることで、区への愛着心や誇りの醸成、区の魅力向上を図ります。</p>

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度	3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり		4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等	<p>①コロナ禍でイベントの中止や参加者が会合出席へ消極的になっていることから、今後のゆめみらい交流会の内容をはじめ、地域が望んでいる開催形式や参加メンバーなどについてアンケートを実施した。</p> <p>②鉄道スポットを活用した魅力発信事業では、鉄道事業者等を始めとした11の企業・団体の協力を得て、区内の鉄道資源の魅力を伝える企画展示を2月～3月にかけて2会場で実施し、約4,000人以上の方の参加がありました。</p> <p>③かこさとしさんと幸区のつながりを区民に知ってもらうため、区役所にてパネル展示会を開催した。また、50周年記念事業として、かこさとしさんの代表作「からすのパンやさん」から着想を得て、区内にある生活介護事業所「セルブきたかせ」と連携してオリジナルのパンを製作・販売することで幸区の魅力向上を図りました。</p>								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標			H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位
	1	活動指標	「ゆめみらい交流会」の開催	目標	2	2	2	2	回
				実績	2	2	2	1	
	2			目標					
				実績					
	3			目標					
実績									
4			目標						
			実績						

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	幸区の貴重な地域資源である夢見ヶ崎公園について、「夢見ヶ崎動物公園基本計画(H30年3月策定)」も踏まえ、建設緑政局とも連携・調整の上、多様な主体と連携し、新たな魅力と賑わいを創出していく必要があります。		
事業の見直し・改善内容	■ 実施 (直近)平成 29 年度 □ 今後実施(平成 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	平成28年度まで地域の魅力発信事業で実施していた花植え活動については、地域振興課の公共花壇花植え事業において同様に地域の小学生との花植えを行っていたことから、業務の効率化を進めるため、平成29年度から「花と緑のさいわい事業(地域振興課)」に統合しました。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	市内唯一の動物園がある夢見ヶ崎公園の魅力を高めていくことは地域資源を活かしたまちづくりを推進する上で重要であり、また、夢見ヶ崎公園を核とした活動団体・企業等の「つながり」を構築することは、「夢見ヶ崎動物公園基本計画基本方針」における「多様な主体との連携の充実による賑わいの創出」に寄与するものと考えられます。また、コロナ禍において遠方への外出が制限される中、身近な地域の魅力を発見して楽しめる場を提供することが求められているものと考えます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	鉄道スポットを活用した魅力発信事業では、昨年の内容に変化を加え、より鉄道スポットを知ることのできる内容と共に協賛企業等からの実物展示に係る協力が得られたことで、小規模な展示会ながら、約4,000人に参加頂き、アンケートの結果多くの方に満足していただき、区の魅力が十分に伝わり、成果が上がったものと考えます。また、クイズラリーを実施し、約900人が参加し、夢見ヶ崎動物公園に足を運ぶ仕掛けを行ったことで、多くの方が動物公園に出向いたものと考えます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	「ゆめみらい交流会」では、より活動団体等が主体となるよう、実施方法や役割分担等の検討を行う必要があると考えられます。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	引き続き、夢見ヶ崎公園周辺で活動する団体や企業等と協働・連携の上、区民車座集会(H29.12)での賑わい創出に向けた提案も踏まえ、貴重な地域資源である夢見ヶ崎公園を核とした加瀬山周辺の魅力を発信する取組を、建設緑政局とも連携しながら進めていきます。
		また、新たな賑わい創出に向けて、鉄道スポットを活用した魅力発信について、今年度の取組で更に多くの企業・団体との連携が生まれたため、引き続き連携を深めていくことで新たな企画を取り入れながら事業を進めていきます。

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	05	05	区の木・区の花推進事業			
担当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			631600		まちづくり推進部 総務課			吉田	62111

事業の概要									
事業の概要		平成24年度に幸区誕生40周年を記念して制定した、区の木(ハナミズキ)・区の花(ヤマブキ)を区民に広く周知します。また、区の木・区の花を植樹することで、区内の緑化促進に貢献します。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		地域資源活用事業	
		平成25年度		—					
地域の課題と現状		区内の緑化を進める必要性はありますが、用地の開発は、ほぼ終了していることから、大幅な緑地の増加は困難です。一方で区民の愛着心などを醸成してもらうための認知度については、さらに向上させる余地があります。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	805	805	685	275	550	192	253	253
	財源内訳								
	国庫支出金								
	市債								
	その他特財								
	一般財源	805	805	685	275	550	192	253	253

計画 (Plan)	
事業の目的	平成24年度に幸区誕生40周年を記念して制定した、区の木(ハナミズキ)・区の花(ヤマブキ)を区民に広く周知し、区への愛着心を向上させることを目的としています。また、区の木・区の花を植樹することで、区内の緑化促進に貢献します。
今年度の事業の取組内容	区の木区の花の認知度向上を目的とした物品を活用して、啓発を継続的に実施します。

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度		4		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等		植樹イベント及び啓発物品の作成は行いませんでした。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標		H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位		
	1	成果指標	ハナミズキ認知度/ヤマブキの認知度	目標	40/22	—	40/22	40/22	%	
				実績	32.9/17.6	—	—	—		
	2			目標						
				実績						
	3			目標						
実績										
4			目標							
			実績							

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		認知度の上昇には、時間と継続的な事業の実施が必要であるが、費用対効果が得られにくいので、費用をかけない啓発活動にシフトチェンジする必要がある。	
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) 令和 3 年度 □ 今後実施(年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		啓発物品の作成を中止し、区内イベントや小学校での物品配布は行わなかった。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	b
	評価の理由	区の木・花の制定から10年経過し、区内の緑化推進と、区の木・花の知名度向上による区へ誇りや愛着の醸成に一定の役割を果たしたと判断できます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	b
	評価の理由	児童を中心に啓発を行っていたため、一定程度時間を要するものの、今後、認知度は向上していくと考えられます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	広報所管部署とも連携を図りながら、より効率的・効果的な周知・広報について改善を進めていける余地があります。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	III
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性		
区の木・花の制定から10年経過し、区内の緑化推進と、区の木・花の知名度向上による区へ誇りや愛着の醸成に一定の役割を果たしたと判断し、令和3年度をもって事業を終了する。		

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	05	20	地域資源を活かしたまちづくり事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			631750		まちづくり推進部 生涯学習支援課(日吉地区担当)		飯島	72113	

事業の概要																																																	
事業の概要		日吉地区に点在する自然・歴史・文化などの豊富な地域資源を大切にしていくとともに、地域で活動する団体・個人がこれらの地域資源を活用し、次世代に継承していくことにより、地域資源を活かしたまちづくりを推進します。																																															
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		地域資源活用事業																																											
		平成19年度	—																																														
地域の課題と現状		地域コミュニティの希薄化が進む中で、マンションの増加などで新規住民は増加しております。日吉地区の歴史や文化などの地域資源を守り、次世代に伝える事業は、区民の地域への愛着を醸成することが必要です。																																															
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度																																									
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額																																								
	事業費	444	364	439	300	439	277	417	138																																								
	財源内訳	<table border="1"> <tr> <td>国庫支出金</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>市債</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他特財</td> <td>10</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>434</td> <td>358</td> <td>434</td> <td>296</td> <td>429</td> <td>276</td> <td>412</td> <td>138</td> </tr> </table>									国庫支出金										市債										その他特財	10	6	5	4	5	1	5	0		一般財源	434	358	434	296	429	276	412	138
	国庫支出金																																																
市債																																																	
その他特財	10	6	5	4	5	1	5	0																																									
一般財源	434	358	434	296	429	276	412	138																																									

計画 (Plan)	
事業の目的	日吉地区の歴史や魅力を発信し区民が地域に愛着を持つことにより、よりよいまちづくりの実現をめざします。
今年度の事業の取組内容	地域とのネットワークづくりや世代間交流を推進するためのイベントを開催します。 昨年度作成した地域の歴史講座や地域の魅力発信につながる絵本・紙芝居を使ったイベントを開催します。 また、その活動内容を地域に周知し、ネットワークの拡充を図るためネットワーク新聞を作成し発行します。

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度		4		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり		4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、規模を縮小したイベントを、コロナ禍に配慮しながら以下のとおり地域資源を活用した事業を実施しました。 ・てくてく日吉 兜姿で夢見ヶ崎を歩こう(参加者数5名) ・てくてく日吉 竜宮伝説の地をめぐる(参加者数9名) ・ネットワーク新聞発行(年1回 5,000部) ・紙芝居「夢見ヶ崎ものがたり」紙芝居「小倉池の玉手箱」図書館以外でも貸出開始								
数値で把握することが可能な取組	指標	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位				
							1	成果指標	気まぐれカフェの参加者数	目標
	実績	57	43	中止	未実施					
	2	成果指標	加瀬山で遊ぶの参加者数	目標	125	125	125	125	人	
	実績	165	中止	中止	未実施					
3	成果指標	歴史講座の参加者数	目標	450	450	450	450	人		
実績	433	339	中止	未実施						
4	成果指標	てくてく日吉	目標				20	人		
実績						14				

評価 (Check)	
事業を取り巻く社会環境の変化	地域の子どもたちが、異なった世代とふれあう機会が少なくなってきた現代社会において、新規住民が増えつつある中、参加者同士や多世代の交流がより求められています。
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) 平成 29 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 今後実施(令和4年度から)
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	R4年度:コロナ禍でも事業を実施できるように日吉地区の魅力発信につながる、絵本・紙芝居を使ったイベントの開催やZoom等を活用した歴史講座の実施など、実施する事業の見直し・改善を令和4年度から行います。 H29年度:郷土の歴史と文化を活かした日吉まちづくり事業について、民間ノウハウを活用しながら、歴史的文化的遺産を保存・継承し地域で活用できるように、契約方法の見直しを図りました。

評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	中止になった歴史講座については問合せが多数あり、絵本・紙芝居は図書館での貸出、地域での読み語り等に使われることが多く、またてくてく日吉では、小学生から70代まで幅広い世代の参加があり、事業のニーズは高いと考えられます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	b
	評価の理由	今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、規模を縮小したイベントしか出来なかったが、「てくてく日吉」、ネットワーク新聞の発行など、日吉地区の様々な世代に向けての魅力発信事業を展開し、参加者アンケートも好評であったことから、一定の成果があったと考えられます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	昨年度からネットワーク新聞の発行を年2回から年1回に変更することにより委託費を削減すると共に年1回の発行で効率的に魅力を発信できるような内容を見直しました。 引き続き、業務委託の発注仕様書の見直しを図り、区と事業者との役割分担など事務の効率化など改善を進めていきます。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II 地域で活動する団体及び個人がネットワークを構築し、地域特有の自然・文化・歴史を守り、世代間の交流を促進する本事業は、参加者も多く、今後も地域のニーズを見定めつつ、コロナ禍に配慮した事業の実施を行いながら、見直し・改善のうえ継続していきます。

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	05	50	さいわいはじめようエコ事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			631650		まちづくり推進部 企画課		田邊	62126	

事業の概要									
事業の概要		地球温暖化、リサイクル等、地球環境に配慮した行動をできることからはじめようと呼びかけるため、小学生を対象とした環境学習イベントの開催、区民と連携した緑のカーテンづくりや企業等と連携したプリンターインクカートリッジ、廃食油の回収など、環境に配慮した取組を行います。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		地域資源活用事業			
		平成20年度	—						
地域の課題と現状		東日本大震災以降、節電等、区民の地球環境問題に関する意識は一層高まっており、低炭素社会に向けて身近な生活の中で実践できる取組の紹介など、区民への環境啓発を推進することの重要性は高まっています。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	1,109(1,106)	987	1,265(1,386)	1,350	388(307)	297	285	163
財源内訳	国庫支出金	0							
	市債	0							
	その他特財	0							
	一般財源	1,109(1,106)	987	1,265(1,386)	1,350	388(307)	379	285	163

計画 (Plan)	
事業の目的	地球温暖化、リサイクル等、地球環境に配慮した行動をできることからはじめようと呼びかけ、区内でのエコの取組を推進します。
今年度の事業の取組内容	最新の環境配慮設備が導入されている幸区役所庁舎を題材とした「幸区役所エコツアー」を企画し、区内の小学生と保護者を対象とした環境学習を通じてエコの意識醸成を図ります。また、区民と連携した緑のカーテンづくりや企業等と連携したプリンターインクカートリッジ、廃食油の回収など、環境に配慮した取組を行います。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり		4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等		①幸区役所内の環境配慮設備を活用してエコについて学ぶイベント「さいわいエコツアー」の実施(参加者:33人) ②区役所、日吉合同庁舎でゴーヤーの種子を200袋配布 ③プリンターのインク製造メーカーと連携し、区民の使用済インクカートリッジの回収を区役所・日吉合同庁舎にて実施 ④市民活動団体と連携し、廃食油の回収を区役所・日吉合同庁舎で実施 ⑤市政だより幸区版(R3.7月号)の1面で、脱炭素をテーマとした特集記事を作成し市民への啓発を実施							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標			H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位
	1	成果指標	「さいわい子どもエコフェア」の来場者数	目標	800	800	—	—	人
				実績	1,000	900	—	—	
	2			目標					
				実績					
3			目標						
			実績						
4			目標						
			実績						

評価 (Check)	
事業を取り巻く社会環境の変化	2016年5月、国の「地球温暖化対策計画」が策定され、2030年の温室効果ガス排出量を2013比で26%削減する目標が掲げられました。また、2020年11月に、2050年までにCO2排出量実質ゼロの達成を目指す「かわさきカーボンゼロチャレンジ2050」を本市で策定しました。こうした動向や気候変動の影響などを踏まえ、区としても着実に地球温暖化対策を進める必要があります。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) 令和 2 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	R2年度:これまで開催していた「エコフェア」は区内の類似イベントとの統合化を図る一方、環境学習に特化したイベント(さいわいエコツアー)を実施し、効果的な環境啓発を行うよう事業の見直しを行いました。

評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	本市に大きな被害をもたらした令和元年台風第19号など災害という形で気候変動の影響が顕在化しており、施策の必要性及び区民の環境意識は高まっているため、継続した環境啓発の必要性は高いと考えます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	さいわいエコツアーにおいて、区内で活動する市民団体と連携した企画とすることで、区が単独で実施するよりも効果的に事業が実施できることから、一定の成果が上がっていると考えます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	さいわいエコツアーにおいて、対象者に合わせた企画内容の検討や回数、人数など開催手法の検討を行い、より多くの区民に対して効果的な啓発につながるような事業となるよう見直しを図ります。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II 2050年の脱炭素社会の実現のために、区民の更なる環境意識の向上が求められていることから、引き続き環境啓発事業を継続するとともに、幸区役所エコツアーについても、時節に応じた内容や、関心が高い環境分野のテーマ・内容を盛り込むなど、参加者のニーズに合わせた内容となるよう見直しを図ることで、より効率的・効果的な事業をなすよう進めていきます。

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	05	55	さいわいガイドマップ発行事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			631700		まちづくり推進部 地域振興課		真田	62356	

事業の概要										
事業の概要		幸区の地理や公共施設の一覧など、区民生活に必要な基礎的な情報を提供するため、幸区への転入者を主な配布対象者とする「さいわいガイドマップ」を発行し、利便性の向上や地域理解の促進を図ります。								
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業	地域資源活用事業					
		平成2年度	—							
地域の課題と現状		新たなマンションの建設や再開発により地図情報は日々変化しており、その更新を確実にやっていく必要があります。また、限られたスペースに、より有用な情報を選択して掲載する必要があります。								
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	事業費	900	897	941	693	961	645	850	638	
	財源内訳	国庫支出金								
		市債								
その他特財		120	125	120	125	120	103	125	103	
一般財源	780	772	821	573	841	542	725	535		

計画 (Plan)	
事業の目的	転入者をはじめ区民の方々に、区内の地図や公共施設一覧、幸区の見どころなどを紹介し、幸区を知ってもらうとともに、親しみを持ってもらうことを目的とします。
今年度の事業の取組内容	幸区内の地図や公共施設の一覧、バス路線図の情報など区民生活に必要な基礎的な情報を提供するための「さいわいガイドマップ」を最新の情報に更新し、10,000部発行します。

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり		4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等		<ul style="list-style-type: none"> 地図情報の更新や掲載内容については、各所管課へ確認してもらうことで効率的かつ正確に最新情報を集めて見直しを図り、10,000部発行しました。 他区や他都市のマップを調査研究し、ガイドマップを手にする方が多くが転入者であることを踏まえた上で、幸区の魅力がより伝わるガイドマップとなるよう表紙をはじめ、掲載内容についても大幅な見直しを図りました。 広告を掲載することで、経費節減を図りました。 								
数値で把握することが可能な取組		指標分類	指標		H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位	
		1	成果指標	広告収入	目標	126	125	125	125	千円
					実績	125	125	103	103	
		2			目標					
					実績					
3			目標							
			実績							
4			目標							
			実績							

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		幸区は、新たなマンション建設や再開発が行われるなど地図情報が日々変化している点や地域包括ケアシステムの構築や地域コミュニティの活性化を進める中で、ガイドマップは区の情報ツールとしてますます重要となります。	
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) 令和 2 年度 □ 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		必要とする区民に配布し、残数(廃棄)が大幅に出ないように発行部数の見直しを行いました。(H31:13,000部→R2:10,000部)	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	区の概況を凝縮した広報物であり、地理的情報ツールとしても需要は高いと考えます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	保育園入園希望者などに対して窓口で配布するなど、転入者以外についても配布需要が増えていきます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	引き続き広告収入の確保に努め経費節減を図るとともに、事務作業の効率化などの改善を進めていきます。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性		
需要の高い広報物であることから事業の目的や方向性を維持し、内容を更新しながら今後も区民にとってわかりやすい誌面作りを行っていく事が適切であると考えます。		

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	10	25	幸区ご近所支え愛事業			
担当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			635000		地域みまもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)地域ケア推進課			臼井、長谷川	62882

事業の概要									
事業の概要		<p>区民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる地域の実現が課題となっていることから、町内会・自治会を中心に地域住民が主体となり、概ね75歳以上のひとり暮らしまたは高齢者のみ世帯の方を主な対象とした声かけや近所の行事へのお誘いを通じ、近所のつながりで見守り支え合いを行います。当事業の円滑な実施のため、推進会議及び部会を設置し、会議においては実施状況の報告、課題の検討、関係機関との連携調整、当事業の評価等を行い、部会においては地域課題の把握、見守り対象者の把握、対象者への見守りを検討します。</p>							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		健康福祉まちづくり事業費	
		平成27年度		—					
地域の課題と現状		<p>進行する高齢化に伴い、ひとり暮らし高齢者や高齢者夫婦のみの世帯及び認知症高齢者数の増加が見込まれる中、地域包括ケアシステムの構築に向けて、「自助」「互助」の意識の醸成を図り、誰もがいつまでも住み慣れた地域で暮らし続けられるために、地域全体で見守り、支え合う体制づくりを進めていくことが重要となっています。</p>							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
財源内訳	事業費	3,706(3,682)	3,218	3706(3,654)	2,789	3,651(3,540)	2,593	2,834	1,496
	国庫支出金								
	市債								
	その他特財 一般財源	3,706(3,682)	3,218	3706(3,654)	2,789	3,651(3,540)	2,593	2,834	1,496

計画 (Plan)	
事業の目的	幸区民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる地域の実現を目指し、地域住民とともに実施します。
今年度の事業の取組内容	幸区の地域包括ケアシステムの構築に向け、地域で支え合う仕組みづくりとしての「幸区ご近所支え愛事業」を実施30地区の町内会・自治会による部会を設置、推進会議(2回)、講演会(1回)を開催し、事業報告書の作成・発行を行います。また、ご近所支え愛事業未実施地区にヒアリングを行い、地域での独自の互助の取組に関する情報収集を行うほか、必要な情報提供及び地域づくりの支援を行います。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり		4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った			
取組内容の実績等		<p>・合計30の町内会・自治会で部会を設置し、新型コロナウイルス感染症予防対策を施しながらコロナ禍での地域での活動状況などの情報を「まち/パタ」等を活用しながら町内会・自治会役員や民生委員等の部会員と共有しました。 ・部会未実施の41の町内会・自治会に対して、個別にヒアリングを行い、地域活動等の状況や地域包括支援センターなどの専門相談機関の情報を共有し、次年度以降の地域づくりの取組への整理を行いました。 ・推進会議はコロナ禍で部会活動が中止となっている町内会・自治会が半数近くあったことから、講演会と兼ねて、コロナ禍・コロナ後における地域の見守りのあり方を学ぶ研修会として1回開催しました。</p>							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標		H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位	
	1	活動指標	幸区ご近所支え愛事業の町内会ごとに設置する部会の会員等の人数	目標	—	—	—	—	人
				実績	612	687	696	696	
	2	活動指標	幸区ご近所支え愛事業実施地区数	目標	—	—	—	—	地区
				実績	24	28	30	30	
3	成果指標	幸区ご近所支え愛事業講演会参加者数	目標	100	100	100	100	人	
			実績	94	51	30	50		
4			目標						
			実績						

評価 (Check)	
事業を取り巻く社会環境の変化	幸区の高齢化率は、令和2年10月1日時点で22.65%で全市平均の20.45%を上回り、一人暮らしや高齢者のみ世帯、要介護者や認知症高齢も増えています。このような中で、身近な地域で住民や専門機関が連携し支え合えるような仕組みづくりはさらに求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) R 3 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成31年度から) ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載 R3:ご近所支え愛事業の仕組みに限らず地域独自の見守り・支え合いの活動を尊重して、部会未実施の町内会・自治会へ個別にヒアリングを行い、地域活動等の状況を共有しました。 R1:部会設置地区の住民へのインタビューから事業実施のコツをまとめたパターンラングー「まち/パタ」を作成しました。

評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	24時間365日地域で暮らし続ける区民がお互いに見守り、支え合う互助の取組を強化するとともに、いざという時には専門相談機関に相談し早期介入につなげる地域と専門機関が密に連携していく取組はさらに求められます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	ご近所支え愛事業実施の有無にかかわらず全ての町内会・自治会に対して丁寧な意見交換を行うことで、各地域の課題や意向を共有することができ、今後の地域づくりに向けて、地域の方々が見守り、支え合う意識を高めていくとともに、専門相談機関との連携がしやすい関係づくりを進めたことなど、成果は上がっているものと考えます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	ご近所支え愛事業の手法に固執することなく、今年度実施した町内会・自治会へのヒアリングの結果等をふまえながら、地域独自の手法を尊重しながら、地域での互助の取組を推進していく必要があると考えます。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
		幸区における地域包括ケアシステム構築に向け、ご近所支え愛事業の仕組みに限らず、地域住民と十分な対話を行いながら、各地域で互助の意識を高めていくことと専門相談機関との連携がしやすい関係づくりに向けた取組を推進していきます。

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	10	10	健康長寿推進事業			
担当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			635150		地域みまもり支援センター 地域支援課			浅野・廣田	62841

事業の概要										
事業の概要		高齢者が地域の中でつながりを持ち、健康を維持・増進するためには、健康づくりに関する知識を習得する機会を提供することが課題であることから、身近な地域で住民主体の健康づくり活動を展開し、健康づくりやそのための環境づくりについて、住民と共に考え、地域特性に合わせて取り組み、健康づくりの普及啓発を推進します。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		健康福祉まちづくり事業		
		平成20年度		—						
地域の課題と現状		幸区の高齢化率は21.4%(令和2年3月末現在)と市内19.9%に対して高く、さらに区内には50%を超える地域があり、今後さらに高齢化が進むと考えられます。地域住民と共に、地域でいきいきと健康で安心して暮らせるように、高齢者を対象に健康づくりについて考える機会を作り、身近な場所で、健康づくりに取り組めるまちづくりを進める必要があります。								
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R1年度		R2年度		R3年度		
	事業費	601	500	598	480	470	182	521	401	
	財源内訳	国庫支出金								
		市債								
		その他特財								
一般財源	601	500	598	480	470	182	521	401		

計画 (Plan)	
事業の目的	区民が高齢になっても住み慣れた地域でつながりを持ちながらいきいきと暮らせるよう、身近な場所で主体的に健康維持・増進活動及び仲間づくりの活動に取り組むことを支援します。
今年度の事業の取組内容	・健康長寿推進事業により発足した健康づくりグループを中心とした自主グループ交流会を年1回開催します。 ・幸区内の健康づくり等を目的に活動しているグループの紹介を主としたシニアかがやき情報誌(令和元年度改訂版)を増刷し、広く区民に活用してもらえよう配布します。

実施結果 (Do)											
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり		4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等		令和3年11月11日に自主グループ交流会を開催し、講話と体験実技、コロナ禍での活動の工夫や活動再開に向けての情報交換を実施しました。また、昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、活動を自粛する会が多く、「幸区シニアかがやき情報誌令和元年度版」の増刷を中止していましたが、新しい生活様式を守りながら、活動を再開する会が増え、自主グループ等の地域活動の状況把握を行いました。高齢者への情報提供を継続的・効果的に行うために、町内会館等で掲示できる内容に編集し、区内全域の情報誌から地区別「シニアかがやき情報」を変更し発行しました。									
数値で把握することが可能な取組		指標分類		指標		H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位	
		1	成果指標	地域での健康づくりを主とした互助活動の意義を理解する(講義内容が理解できた人の割合)		目標	80	80	80	80	%
				実績	83	100	100	100			
		2	成果指標	交流会参加者の満足度(満足と回答した人の割合)		目標	90	90	90	90	%
				実績	100	82	90	92			
3				目標							
4				目標							

評価 (Check)	
事業を取り巻く社会環境の変化	第8期川崎市高齢者保健福祉計画(かわさきいきいき長寿プラン)では、いきがい介護予防施策等の推進として、健康づくり活動の普及や早い時期からの介護予防に向けた取組が課題となっています。また、人生100年時代となり、認知症施策の推進等が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) H 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 今後実施(令和4年度から)
	令和4年度から、対象を50代以上に変更し、事業名を「健康づくり推進事業」に変更します。50代は人生の折り返し地点であり、自身の体調の変化やこれからの未来を自分事として考える時期に差し掛かり、この時期をたらえて、幸区でいきいき暮らす将来のイメージができるよう、自分の健康状態の確認、ボランティア活動の紹介、健康づくり・フレイル予防等健康情報、介護の相談先等の普及啓発を行います。また、「50代からのさいわい健康Book」を新たに作成し、ホームページ等での周知や健康づくり普及啓発講演会等で冊子を活用していきます。

評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	地域包括ケアシステムの推進における自助・互助活動の一つとして、またフレイル予防の取組として、地域に根差した活動を活性化させていくことが必要と考えます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	平成29年度までに区内全域で段階的に普及啓発を行い、多くの自主グループが発足し、継続した活動につながっています。さらにコロナ禍での活動の工夫等の情報共有を自主グループ交流会で実施でき、地域の健康づくり活動の継続の意義・動機付けになっています。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	高齢者が自分の住む身近な地域の集いの場や健康づくりの活動情報をより把握しやすくするために、仕様を見直し、「幸区シニアかがやき情報誌」構成を、区内全域から地区別に変更しました。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II 本事業で立ち上がった多くの健康づくり自主グループの活動が主体的に行われるように、支援を継続します。また、「自主グループ交流会」は「健康づくり普及啓発講演会」として、50代以上を対象にします。また、新たに、「50代からのさいわい健康Book」を作成し、シニア世代向けの地区版「シニアかがやき情報」は更新を継続し、地域包括ケアシステムの醸成を推進していきます。

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	10	05	保健福祉・地域包括ケアシステム情報発信事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			635000		地域みまもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)地域ケア推進課		福本、長谷川	62881	

事業の概要									
事業の概要		区民の健康的な生活のため、保健福祉に関する最新情報を区民へ提供する必要があります。保健福祉に関する情報や制度の周知として、情報誌「保健福祉センターだより」を発行し、区内全戸に年3回ポストイングによる配布及び区内公共施設での配布により情報を発信します。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		健康福祉まちづくり事業			
		平成18年度	—						
地域の課題と現状		大規模集合住宅の建設により子育て世代を中心とした人口増加が続く一方、高齢化も進んでいる現状の中、子どもから高齢者まで全ての地域住民を対象とした地域包括ケアシステムの構築に向けた取組が必要であり、区民に対して継続的に保健福祉に関する情報を発信します。また、地域活動をする方たちが高齢化し、若い世代の担い手が不足していることから、地域活動への興味を深めるため、中高生が経験できるようなボランティア教育や活動メニューを提供します。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	3,104	2,758	3,600	3,259	3,637	3,354	3,542	2,981
	財源内訳								
	国庫支出金								
	市債								
	その他特財								
	一般財源	3,104	2,758	3,600	3,259	3,637	3,354	3,542	2,981

計画 (Plan)	
事業の目的	保健福祉に関する情報を的確かつ効果的に発信することで、保健福祉に関する区民の関心及び理解を深めるとともに、各課が開催する事業及び講座等の利用促進並びに制度の周知を行います。
今年度の事業の取組内容	保健福祉に関する情報発信の手段として、情報誌「保健福祉情報さいわい」(A4、8ページ、フルカラー)を発行し、ポストイングによる全戸配布を行います。中高生の地域活動でのボランティアを実施する「さいわいはび☆ボランティア(はび☆ボラ)」について、高校生向けにボランティアに関するアンケート調査を行います。また、コロナウイルス感染症の状況をふまえてボランティア募集やその成果等の広報を行います。

実施結果 (Do)								
上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり	4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等	「保健福祉情報さいわい」を、年3回、7、11、2月号(各82,500部)を全戸配布(ポストイング)等を行いました。コロナ禍において様々な活動が中止とならざるを得ない中、地域福祉活動団体に地域での活動への想いなどを掲載した結果、特集した団体へスタッフとして関わりたいといった反響を多数いただき、地域福祉への関心や担い手の拡大につなげました。はび☆ボラについては、区内在学高校生へボランティア活動に対するアンケート調査を行い、その結果をふまえ、古川小学校校庭開放時のスタッフや河原町地区の集いの場での看板作成など、高校生の得意な分野を活かしたボランティア活動の場を地域に広げました。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標		H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位
	1 活動指標	発行回数	目標	3	3	3	3	回
			実績	3	3	3	3	
	2		目標					
			実績					
3		目標						
		実績						
4		目標						
		実績						

評価 (Check)	
事業を取り巻く社会環境の変化	地域における様々な課題を解決するため、子どもから高齢者まで全ての地域住民を対象とした地域包括ケアシステムの構築が重要視される中、区民に対し継続的に保健・福祉に関わる情報発信が必要です。特にコロナ禍でイベントや講演会等が実施できない中、各戸配布の情報誌による情報発信の重要性は高い状況にあります。
事業の見直し・改善内容	■ 実施 (直近) R 2 年度 □ 今後実施(平成 年度から)
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	R3年度: コミュニティ施策におけるまちの広場につながる地域福祉活動団体を新たに特集することで、地域福祉活動担い手拡大につなげる取組を行いました。ボランティアに関するニーズ把握を行うため高校生アンケートを行いました。 R2年度: イベント情報を中心とした内容から、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた対策など、区民が必要とする保健福祉に関する情報や制度などの内容へと紙面構成を見直し、写真やイラスト等を活用してわかりやすく伝えるよう工夫しました。

評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	転入者の増加やIT機器に不慣れな方にも的確に情報を届ける観点から、区民に対し継続的に保健・福祉に関わる情報発信をする手段としてニーズは高いと考えられます。地域活動担い手が課題となっていることから中高生の地域活動への参加を促進する必要があります。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	特集した記事に対しての区民からの反響がある等、地域福祉活動団体の課題となっている担い手の確保や高齢化といった課題に対しての成果が上がっていると考えます。高校生へのアンケート結果をふまえて、地域でのボランティア活動など実施メニューの拡大につながっており、定量データに基づく実施の成果が上がっていると考えます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	市政だより幸区特別号での特集と連携し、保健福祉情報さいわいとしての発行部数を減少させることによる経費削減などの事務改善の可能性があると考えます。中高生が地域でのボランティア実施時等の広報を工夫することで、中高生のボランティア拡大に向けた取組を進める必要があります。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性 保健・福祉に関わる情報や地域福祉活動の担い手確保の課題を解決するための情報を発信する効果的な手段として、事業目的や方向性を維持しながら継続することが適切であると考えます。一方で、市政だより幸区特別号での特集と連携するなど、区としての効果的・効果的な広報業務の実施に向けた取組を進めます。若者の地域活動への参加を拡大するため地域でのボランティアメニューの拡大を進めます。		

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	10	20	さいわい食品衛生啓発事業			
担 当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			635450		地域みまもり支援センター 衛生課			沖満	62564

事業の概要									
事業の概要		食中毒予防の基本である、食中毒予防の三原則(つけない、増やさない、やっつける)や食品の正しい保存方法、正しい手洗いの重要性等について区民へ啓発を行い、家庭における食中毒の発生を予防します。また、8月の食品衛生月間に、区役所内展示スペースで、区内の小学生が作成した食中毒予防等食品衛生に関するポスター展を開催し、広く区民に対して食品衛生知識の啓発を図ります。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業	保健福祉まちづくり事業				
		平成24年度	令和3年度						
地域の課題と現状		家庭における食中毒は毎年発生していることから、区民に正しい食品衛生知識を広く、かつ継続的に啓発していく必要があります。							
予算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
		179	164	189	151	168	210	161(9)	0
財源内訳	国庫支出金								
	市債								
	その他特財								
	一般財源	179	164	189	151	168	210	161(9)	0

計画 (Plan)	
事業の目的	食中毒予防の基本について区民へ啓発を行い、食品衛生に関する知識の向上を図ることで、家庭内での食中毒の発生を予防します。
今年度の事業の取組内容	「我が家の食品衛生」を増刷し、各種衛生講習会や食中毒予防キャンペーン、赤ちゃん銭湯、衛生課窓口等で説明とともに配布します。食品衛生月間である8月に、区役所展示スペース及び市バスにおいて、区内小学生の作成したポスターを掲示し「食品衛生ポスター展」を開催します。また、区役所展示スペースにおいて、食中毒予防に関するリーフレットを配備するとともに子どもも興味を持つような啓発パネルや大人向けの啓発パネルを掲示し、広い世代の興味を引くよう取り組みます。

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度	4	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った								
取組内容の実績等	8月に区役所展示スペース及び市バスにおいて、区内小学生の作成したポスターを掲示し「食品衛生ポスター展」を開催した。両親学級や窓口等で、「我が家の食品衛生」を配布した。									
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標				H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位
	1	活動指標	「我が家の食品衛生」配布	目標	1,000	1,000	1,000	1,000	部	
				実績	1,000	1,000	100	619		
	2			目標						
				実績						
	3			目標						
				実績						
	4			目標						
実績										

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	飲食店等の食品営業施設だけでなく、一般家庭でも食中毒は発生しており、今後も区民に継続して食品衛生知識を啓発していく必要がある。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 29 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	アニサキスによる食中毒が全国的に増加していることを受け、「我が家の食品衛生」を改訂し、アニサキスに関する情報を掲載した。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	一般家庭でも食中毒は毎年発生しており、食品衛生に関する知識を広く、継続的に啓発していく必要がある。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	「我が家の食品衛生」を使用して説明することで、専門的な知識がない一般の方へも食品衛生についてわかりやすく伝えることができている。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	普及啓発に係る効果的な広報手段を検討していく。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	III 「我が家の食品衛生」以外にも食中毒や食品衛生に関する各種既存のリーフレットがあるため、今後は、それらを活用し普及啓発を行う。

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード					地域課題対応事業 予算小事業名称				
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	10	35	さいわい動物愛護推進事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			635450		幸区 地域みまもり支援センター 衛生課		江口	62561	

事業の概要

事業の概要		動物の愛護と適正な飼養管理について普及啓発を行い、理解と関心を深めることで、飼養動物に関するトラブルを抑制することを目的としてリーフレット及びペットの災害対策のための「ペットの防災手帳」を配布するとともに、区民の相談に対応するため種々の啓発用プレートを作成・配布します。また、子ども向け動物愛護啓発小冊子「ワンコからのてがみ」を作成し就学児に配布し、夏休み親子動物愛護教室を開催します。								
実施期間		事業開始年度 平成17年度		事業終了年度 —		予算中事業		保健福祉まちづくり事業		
地域の課題と現状		動物に係る苦情相談数は年間300件以上にのぼります。飼い主あて適正飼養について指導を実施するのみではなく、動物を取り囲む幅広い対象に対し、動物の習性等について普及啓発し理解を深め、動物の遺棄を防止、地域住民が動物とともに安心して暮らせるよう、様々な世代に動物愛護思想及び動物の適正飼養の普及啓発を行い、住みよい街幸区を推進していく必要があります。								
予決算 (単位:千円)	年度	R01年度		R01年度		R02年度		R03年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	事業費		187	173	184	143	168	156	174	163
	財源内訳									
	国庫支出金									
	市債									
	その他特財									
	一般財源	187	173	184	143	168	156	174	163	

計画 (Plan)

事業の目的	動物の愛護と適正な飼養管理について普及啓発を行い、区民の理解と関心を深めることで、飼養動物に関するトラブルを抑制し、人と動物の共生を図ります。
今年度の事業の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 動物愛護啓発冊子「ワンコからのてがみ」の増刷、配布 地域的な問題となりやすい犬の糞尿処理や猫の適正な管理について、飼い主等への啓発用プレートを作成、配布 各種行事等で糞取り袋や動物愛護及び適正飼養に関するリーフレットを配布し、啓発活動を実施 夢見ヶ崎動物公園との共催で「親子動物愛護教室」を開催 「幸区春の総合防災訓練」にてペットの同行避難等に関する普及啓発(パネル、物品展示等)を実施

実施結果 (Do)

上記取組内容に対する達成度	4	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等	<ul style="list-style-type: none"> 動物愛護啓発冊子「ワンコからのてがみ」:1,424冊配布 動物愛護及び適正飼養に関するリーフレット:1,200枚配布 夢見ヶ崎動物公園との共催で毎年実施している「親子動物愛護教室」、「幸区春の総合防災訓練」におけるペットの同行避難に関する普及啓発を新型コロナウイルス感染症のため中止 危機管理担当が主催する「幸区防災講演会」にてペットの同行避難等に関する普及啓発を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症のため中止 動物愛護普及について、区役所1階ロビーにて昨年度作成した動画を編集し情報を追加したものを上映及びパネル展示、リーフレット配架を行った。 						
数値で把握することが可能な取組	指標		H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位
	1	活動指標 親子動物愛護教室の実施(参加者)	目標 20	20	20	20	
			実績 20	19	中止	中止	
	2		目標				
			実績				
3		目標					
		実績					
4		目標					
		実績					

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化	ペット飼養に起因する近隣トラブルや動物虐待事件は継続的に発生しております。また、災害時ペットの防災について関心も高まっており、住みよい街幸区を推進していくために動物愛護の普及啓発は今後も必要であると考えます。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) 令和 2 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から) 具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載 平成28年度から事業見直しにより、外部講師による動物愛護セミナーを実施せず、内部講師(動物愛護センターや生活衛生課職員)によるセミナーやリーフレット等による普及啓発の実施を行いました。 また、令和2年度及び3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、親子動物愛護教室は中止になったものの、動画を作成し区役所ロビーで上映するなど実施形態の変更等を行いながら動物愛護啓発業務を継続しました。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	昨年度、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で実施が出来ませんでした。親子動物愛護教室は、終了後のアンケートで参加者から「楽しかった」「勉強になった」等の評価が得られており、毎年キャンセル待ちが生じています。動物愛護に係る区民の関心は高く、事業の成果があると考えています。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	28年度に見直しによる改善(外部講師による愛護教室開催を内部講師又はリーフレットの配布による普及啓発)を実施したため、今後暫くは現状のまま継続していきたいと考えています。	

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I	ペット飼養に起因する近隣トラブルや動物虐待事件は継続的に発生しております。また、災害時ペットの防災について関心も高まっており、動物愛護普及啓発は今後も必要であると考えます。昨年度及び今年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止になったイベントがありますが、引き続き、参加者のニーズを捉えながら継続することが適切であると考えます。

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	10	30	区民のための感染症予防事業			
担当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			635450		地域みまもり支援センター 衛生課			岡部	62563

事業の概要											
事業の概要		新型コロナウイルス感染症が発生し、感染症予防が重要になっています。年少期から感染症予防の基本となる手洗いを習慣づけるため、わかりやすい手洗いハンドブックを作成し、保育園や子ども文化センター等の子どもと保護者が利用する施設に配布します。また、手洗い講習会を開催し、正しい手洗い方法を普及啓発することにより、家庭内や学校等集団生活における感染症のまん延を防止し、区民の健康維持に役立てます。									
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業	保健福祉まちづくり事業						
		平成22年度	令和3年度								
地域の課題と現状		手洗いやうがいには感染症予防の基本となるが、病原体は目に見えないため、手洗いの大切さ、有効性については忘れがちになります。そのため実習や視覚的資料を用いた手洗い講習会を開催し、正しい知識を普及啓発することが必要です。									
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額		
		事業費	184	147	161	152	155	106	164(115)	106	
		財源内訳	国庫支出金								
		市債									
		その他特財									
		一般財源		184	147	161	152	155	106	164(115)	106

計画 (Plan)	
事業の目的	感染症予防の基本となる正しい手洗い方法を普及啓発することにより、家庭内や学校等集団生活における感染症のまん延を防止し、区民の健康維持に役立てます。
今年度の事業の取組内容	保育園や子ども文化センター等、子どもと保護者が利用する施設において、手洗いハンドブックの配布や実習も含めた手洗い講習会を開催し、正しい手洗い方法について普及啓発を行います。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等		・今年度はコロナ渦の影響で保育園等施設に立ち入ることができず、講習会を行うことができなかったが、手洗いチェッカーの貸し出しを行い自主的な啓発活動を援助した。 ・幸区役所地域みまもり支援センター-保育所等・地域連携担当と連携し、手洗いハンドブックを保育園等に約800部配布。							
数値で把握することが可能な取組	1	成果指標	手洗い講習会参加人数	目標	600	600	600	600	人
				実績	606	603	0	0	
	2	活動指標	手洗いハンドブックの配布部数	目標	600	600	600	600	部
				実績	731	760	1400	800	
3				目標					
				実績					
4				目標					
				実績					

評価 (Check)	
事業を取り巻く社会環境の変化	インフルエンザやノロウイルス等感染症の予防には正しい手洗いが重要です。共働き世帯が増加し保育園等で乳幼児が集団生活を送ることも多くなり、病原体の暴露を受ける機会が多くなるため、感染症の予防対策が必要と考えます。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) 31 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	ハンドブックの内容を見直し、「手あい＆せきエチケットの歌」を作成し追加しました。

評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	新型コロナウイルス感染症を代表とする感染症予防のためには、区民や保育園等の従事者に対し、正しい手洗い方法を啓発していく必要があります。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	保育園等での手洗い講習会でハンドブックを配布することによって、園児だけではなく家庭内にも普及啓発をすることができており、正しい手洗いの方法が着実に啓発できています。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	対象施設別の講習会内容のテンプレート作成等、業務にかかる負担軽減や改善を進めていきます。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	III
		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
		正しい手洗い方法については、集団施設に限らず、感染症予防の基本となることである。そのため、より広く公報する方法としてホームページにも掲載しているおり、今後はそちらを活用して啓発をしていく。

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	15	05	総合的なこども支援ネットワーク事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			635000		地域みまもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)地域ケア推進課		臼井、山本、福本	62882	

事業の概要										
事業の概要		安心して子育てできる社会を目指し、区内の子ども支援機関及び関係機関の連携強化が求められることから、情報交換、相互協力及び支援策の検討・推進を図るための会議を通して、子育て支援のネットワークを構築します。部会を設置して、子ども子育て講演会や子育てフェア、学齢期児童向け情報誌の発行等を行います。								
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		こども・子育てまちづくり事業				
		平成18年度	—							
地域の課題と現状		複数の新規大型マンションの建設に伴い、子育て世帯の流入が続く一方で、核家族の増加等家族の在り方の変容や、地域コミュニティの希薄化等により子育て中の親子が孤立化せずに安心して子育てできる環境を引き続き構築する必要があります。								
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	事業費	2,263(2,287)	2,200	2,335(2,531)	2,368	2,385(2,496)	2,466	2,438	1,103	
財源内訳	国庫支出金									
	市債									
	その他特財 一般財源	2,263(2,287)	2,200	2,335(2,531)	2,368	2,385(2,496)	2,466	2,438	1,103	

計画 (Plan)	
事業の目的	子育て家庭の育児不安を解消し、安心して子どもを育てることができる社会を目指して、地域全体で子育てを支援する環境づくりを進めます。
今年度の事業の取組内容	幸区こども総合支援ネットワーク会議及び3つの部会「こどもの地域包括ケアシステム部会」「みんなで子育てフェア部会」「こども情報ネット部会」を開催すると同時に、講演会、フェア、情報誌発行等を実施します。

実施結果 (Do)								
上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等	・こどもの地域包括ケアシステム部会を区内子育てで団体の参加も呼びかけ、ハイブリッド式で1回、書面形式で1回開催しました。また、コロナ禍に即した子育てに関する講演会を2回オンライン方式で開催しました。 ・みんなで子育てフェア部会を4回開催し、10月にフェアを開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の第5波で2月下旬実施へと延期となり、その後第6波の影響により中止となりました。イベントとしては中止となりましたが、子育て関係機関が準備を行う過程で、相互にコロナ禍における活動の情報交換を行ったほか、昨年度を上回る18団体・企業からの協賛を得る予定であったことから、子育てフェアのイベント企画を通じて、多様な主体の子育て施策への参加を促進することができました。 ・こども情報ネット部会を3回開催し、「こども情報ネット」を3回発行し区内小中学生に配布しました。新たに小中学生によるキッズリポーターが専門相談機関を取材した記事を掲載する企画を展開しました。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標		H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位
	1 成果指標	講演会等開催回数	目標	2	2	2	2	回
			実績	2	2	1	2	
	2 活動指標	講演会等参加者満足度	目標	80	80	80	80	%
			実績	87	98	100	91	
3 活動指標	みんなで子育てフェア 参加者数	目標	740	800	800	800	人	
		実績	866	中止	2,000	中止		
4 成果指標	みんなで子育てフェア 地域従事者満足度	目標	80	80	80	80	%	
		実績	80	中止	95	中止		

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	子育て世帯の流入が続く一方で、核家族の増加等家族の在り方の変容や、地域コミュニティの希薄化等により、子育て中の親子が地域で孤立化せずに安心して子育てができる環境を引き続き構築する必要があります。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) 令和 3 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	R3:こども総合支援ネットワーク会議と部会1「こどもの地域包括ケアシステム部会」は構成員が重複する団体が多く、協議内容も類似していることから、構成員の参加の負担の軽減と事業目的達成に向けた効率的な実施の観点から統合しました。 R2:みんなで子育てフェアの開催にあたり、密にならずに地域でのつながりを作るイベントとして、15団体・企業からの協賛を得てスタンプラリー方式に変更し、参加者数と満足度の向上につなげました。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	子育て世帯の流入が続く一方で、核家族の増加等家族の在り方の変容や、地域コミュニティの希薄化等により、子育て中の親子が地域で孤立化せずに安心して子育てができる環境を構築する必要があります。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	「こどもの地域包括ケアシステム部会」では、会議の実施がマンネリ化しないよう、区内子育て機関の参加も呼びかけ、専門相談機関との連携に向けた意識共有する場を設け、参加団体同士での講座企画など新たな連携事業が生まれていることから成果は上がっているものと考えます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	会議開催のスリム化や事業支援業務委託仕様書の見直しによる事務負担軽減など事務改善の余地はあるものと考えており、引き続き検討を進めていきます。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
		子ども子育て分野の地域包括ケアシステムの構築に向けて、関係機関と意見交換や情報共有を行い、子ども子育て支援機関のネットワーク強化や、企業等も含めた地域全体で子育てを支援する環境づくりを継続して実施していきます。

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称		
款	項	目	大	中	小			
11	01	03	26	15	10	こども・子育て支援事業		
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先
			635000		地域みまもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)地域ケア推進課		福本、山本、長谷川	62881

事業の概要										
事業の概要		子育て交流の場の提供、子育て関連情報の提供、子育て支援関係機関・団体の交流等各種事業を通じ、区民のこども・子育て支援に取り組みます。								
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		こども・子育てまなづくり事業				
		平成18年度	—							
地域の課題と現状		大型マンションの建設等に伴い、子育て世帯の増加が続く中、核家族の増加や地域コミュニティの希薄化等により、子育て中の親子が孤立化せずに安心して子育てできるように、今後も引き続き、区民や関係団体との良好な連携関係を継続しながら子育て支援を継続していく必要があります。								
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度		
		事業費	3,330	2,854	2,459(2,293)	1,895	2,344	1,481	3,306	2,090
		国庫支出金								
		市債								
		その他特財								100
財源内訳	一般財源	3,330	2,854	2,459(2,293)	1,895	2,344	1,481	3,306	1,990	

計画 (Plan)	
事業の目的	子育て中の親子が孤立することなく、安心して子育てができ、地域全体で子どもや子育てを支援できるよう、こども・子育て支援事業を実施します。
今年度の事業の取組内容	子育て情報誌「おこさまっさいわい」を区民が参加した編集会議での編集作業をふまえて発行します。こどもの外遊び事業として、区内公園での外遊びと交流の場を提供するほか、人材育成講座を開催します。コロナウイルス感染症の状況をふまえながら、日吉出張所内のおやこであそぼうランドにて、子育て団体向けに部屋の貸出を行います。

実施結果 (Do)								
上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり	4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等	<ul style="list-style-type: none"> 子育て情報誌「おこさまっさいわい」を新たに広告収入を導入して予算執行を効率化したうえで6,800部発行しました。また、3年に1回の大改訂年であったことから、編集会議を4回開催し、冊子の掲載事項を大幅に更新しました。 こどもの外遊び事業は、区内の公園5カ所で開催した他、南河原地区での実施がなかったことから2月にラゾーナ川崎プラザにてイベントを実施し新たに諏訪公園での展開につなげることができました。また、新小倉地区に建設された大型マンションへ多くの子育て層が転入する中、公園での外遊びと交流の場の提供を通じて、子育て世代が地域で孤立することの無いよう取組を進めました。講座はコロナ禍での子育てや外遊びに関する内容で3回実施することができました。 「日吉おやこであそぼうランド(日吉合同庁舎2階)」は、団体登録は行ったものの、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により閉鎖したため貸し出しはできませんでした。 							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位	
	1	活動指標 こどもの外遊び事業の参加者数	目標	2,000	2,000	2,000	1,500	人
			実績	1,996	1,788	1,272	1,710	
	2	成果指標 日吉おやこであそぼうランドの団体登録数	目標	12	18	18	18	団体
			実績	17	16	12	6	
3	活動指標 子育て交流会の参加者数	目標	25	25	25	25	人	
		実績	27	34	中止	27		
4	成果指標 「おこさまっさいわい」の発行部数	目標	6,300	6,500	6,500	6,800	部	
		実績	6,300	6,500	6,900	6,800		

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	新規大型マンションの建設に伴い、子育て世帯の流入が続く一方で、核家族の増加等家族の在り方の変容や、地域コミュニティの希薄化等により、子育て中の親子が孤立化せずに安心して子育てできる環境を引き続き構築する必要があります。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) R 3 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)		
具体的見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	令和3年度 ・令和3年度版のおこさまっさいわいの発行にあたり、新たに広告収入を導入し予算執行額の圧縮を図りました。 ・外遊び事業では、参加者と実施場所の拡大を見据えて、ラゾーナ川崎プラザと連携した取組を新たに展開するなど、効果的な事業実施に向けた工夫を行いました。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	子育て世帯の流入が続く一方で、核家族の増加等家族の在り方の変容や、地域コミュニティの希薄化等により子育て中の親子が孤立化せずに安心して子育てできる環境を構築する必要があります。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	子育て団体交流会や外遊び講座等に関しては、参加者アンケートの結果から約9割(予定)近くの方から「良かった、参考になった」との回答を得ており、満足度の高い取組となっています。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	おこさまっさいわいの電子書籍化による利便性の向上や広告料収入など拡大による事務改善については検討の余地があります。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性		
こども・子育て分野の地域包括ケアシステムの構築に向けて、自助・互助の取組の強化を目指し、子育て団体の相互交流の場や関連情報の提供、外遊びなどの地域人材の育成を通じ、区民のこども・子育て支援に継続して取り組みます。一方、「おこさまっさいわい」の掲載内容については社会環境の変化や区民ニーズを捉え、事業手法の見直しを検討していきます。		

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	15	15	保育所等活用事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			635000		地域みまもり支援センター 保育所等・地域連携		田村	62831	

事業の概要									
事業の概要		地域の子ども・子育て支援を充実・強化し、父親の育児参加の促進、子育て関連情報の提供を行い区民の子育て活動支援を推進します。 また、民間保育所間の連携強化と共に、区内保育所の保育の質の向上に向けた公民保育所の人材育成を積極的に実施します。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		こども・子育てまちづくり事業			
		平成23年度	—						
地域の課題と現状		マンションの増加に伴い、子育て世帯が急増しており、子育ての不安や虐待ケース等があり、地域コミュニティの希薄化が深刻な問題となっています。 また、急増する民間保育所の新設に伴い、保育士の確保が困難になっている上、経験の少ない保育士の人材育成や、それに伴う保育の質の向上に向けて施設間の連携や地域の子育て支援を担う人材の育成、連携が急務となっています。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	2,712	2,444	1,829	1,324	1,824(1,805)	1,049	1,290(1,279)	691
	財源内訳								
	国庫支出金								
	市債								
	その他特財								
	一般財源	2,712	2,444	1,829	1,324	1,824(1,805)	1,049	1,290(1,279)	691

計画 (Plan)	
事業の目的	地域における育児力の低下に伴う地域子育て家庭への支援強化及び地域の保育力の向上を図ります。また、保育施設の急激な増加に伴う保育士の保育の質の向上を図ります。
今年度の事業の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援の機能強化のための各種講座の実施及び情報発信のイベントカレンダー「お散歩に行こうね」等を発行し、子育て支援に務め、公立保育所の支援ルーム(ひまわりルーム等)で施設開放を行います。 ・民間保育所等への支援機能の実施するとともに、公民保育所の保育の質の確保のための各種研修をWEB等で全市統一で実施し人材育成及び保育の質の維持向上を目指します。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等		・子育て世帯に対し、子育てイベント情報を提供するため「お散歩に行こうね」を毎月発行しました。 ・「子育て何でも相談」及び「子育て講座」により、健康・栄養・子育ての相談を実施し子育て世帯の支援を行いました。 ・古川保育園の子育て支援スペース(ひまわりルーム)を令和2年度までは月6回でしたが、令和3年より平日毎日、施設開放を行い、子育て世帯の居場所として活用しました。 ・保育の質の向上にむけ、各種人材育成研修をWEB開催をし、集合研修では、参加が難しい小規模園についても参加することができスキル向上しました。 *新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、集合での研修や講座等は中止し、WEB開催に変更して実施しました。							
数値で把握することが可能な取組		指標		H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位	
		1	成果指標 子育て世帯の各種講座の実施(参加者数) (パパッとサタデー講座、親子でランチ等)	目標 3,320	3,200	2,400	3,000	人	
				実績 3,820	3,028	1,139	1,213		
		2	成果指標 区内保育所等を対象とした各種人材育成研修 (保育士実技研修等)(参加者数)	目標 1,300	1,350	1,000	1,000	人	
				実績 1,429	1,175	1,342	351		
3	活動指標 子育て世帯を対象とした情報発信 (子育てイベントカレンダー発行部数)	目標 18,000	12,000	9,600	6,000	部			
		実績 19,000	12,000	9,600	6,000				
4	成果指標 保育園児との世代間交流の実施(参加者数) (みんなで遊ぼう)	目標 260	260	300	—	人			
		実績 290	215	中止	—				

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		子育て世帯が増加し、また、コロナ禍のため、子育てに不安を抱えている区民に対して子育て支援が必要であり、さらには、新設する保育園等での保育の質の確保と経験の少ない保育士に対しての人材育成が今後とも必要です。	
事業の見直し・改善内容		<input type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載			
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	子育て世帯は今後も増加しており、子育てに不安を抱えている人も多く事業のニーズは高いと考えられます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	講座の参加アンケートでは、ほぼ満足との回答を受け、古川保育園の支援スペースの利用は毎日多数の利用があり、また、人材育成研修はWEB開催にしたことにより、今まで参加できなかった園の参加があり事業の成果はあると考えます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、業務の見直し等による経費削減やWEBの活用を含めた事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	コロナ禍により、人材育成研修をWEB開催にするなど、より参加しやすい環境設定等の可能性がある。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I
今後も増加する子育て世帯に対する各種支援や、適切な情報提供を行い、子育て支援を充実・強化するとともに、保育の質の向上のために人材の育成や連携を進めるために今後も継続的に実施します。		

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称		
款	項	目	大	中	小			
11	01	03	26	15	25	児童虐待防止・子ども相談支援事業		
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先
			635150		地域みまもり支援センター 地域支援課		下田・長・杉山・小田切	62844 62814

事業の概要											
事業の概要		<p>子どもたちが健やかに地域生活を送るための環境づくりが課題であることから、協議会や学習会の開催を通じて、要保護児童・要支援児童等の早期発見や発達に課題のある子どもとその保護者の支援を行う体制づくりを推進します。</p> <p>また、子ども相談窓口を設置し、子どもに関する各種相談を行うほか、要保護児童対策地域協議会幸区実務者会議を開催し、講演や事例検討を通じ、各関係機関と連携を図れるようにするとともに、児童虐待防止について区民への啓発を進めます。</p>									
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		子ども・子育てでまちづくり事業					
		平成26年度	—								
地域の課題と現状		<p>地域の子どもが地域の中で健全に成長していくために、また子育て家庭における虐待を未然に防ぐとともに早期に対応していくため、身近な区役所で相談業務等を実施することが求められています。</p>									
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額		
		事業費		715	673	718	529	723	317	706	533
		財源内訳		国庫支出金		市債		その他特財		一般財源	
		715	673	718	529	723	317	706	533		

計画 (Plan)	
事業の目的	<p>子どもやその家庭が抱える問題を早期に発見し対応することで重症化を防ぎ、また的確な支援を継続的に行うことで問題の再発を予防します。また、児童虐待予防や要保護児童の発見に地域で取り組める体制を構築します。</p>
今年度の事業の取組内容	<p>子ども相談窓口リーフレット(外国人の子どもをもつ保護者も理解し易いよう、やさしい日本語を用いるなどの改訂を検討)を増刷し、普及啓発を行います。要保護児童対策地域協議会幸区実務者会議にて代表者部会を年2回、研修会を年3回開催します(会場開催やオンライン講演会など)。研修会ではグループワーク等も行い、顔の見える関係づくり及び出席者の相談援助技術の向上を図ります。子ども発達支援保護者学習会を年9回開催し、保護者の学びの場を提供します。</p>

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度	3			1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり		4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った			
取組内容の実績等	<p>子ども相談窓口リーフレット(やさしい日本語版)を増刷・配布し、保護者や子ども、地域の関係機関に対して相談窓口等の普及啓発を行いました。要保護児童対策地域協議会幸区実務者会議に申し、代表者部会を年2回実施、研修会を年3回(コロナ禍により会場とZoom開催を併用)実施し、要保護児童の発見・支援を推進するための体制を強化しました。子ども発達支援保護者学習会は、新型コロナ感染拡大防止策を講じながら、年9回開催しました。</p>								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標		H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位	
	1	成果指標	子ども発達支援保護者学習会参加数	目標	170	170	170	170	人
				実績	163	141	72	146	
	2	成果指標	児童虐待相談・通告受理件数	目標	—	—	—	—	人
				実績	144	145	201	181	
	3			目標					
実績									
4			目標						
			実績						

評価 (Check)	
事業を取り巻く社会環境の変化	<p>児童虐待に関する報道が各方面で取り上げられる中、幸区においても児童虐待の相談・通告件数は年々増加しており、令和4年度以降も、継続した相談支援体制の構築と、同年から始まる子ども家庭総合支援拠点の体制整備が必要と見込まれます。また、児童虐待の要因として、子どもの発達課題も見受けられ、虐待予防の視点から、より有効な対策が望まれています。</p>
事業の見直し・改善内容	<p>■ 実施 (直近) R 3 年度 □ 今後実施(平成 年度から)</p> <p>具体的見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載</p> <p>・要保護児童対策地域協議会幸区実務者会議では、新型コロナ感染拡大防止策として、体表者部会や研修会を、当初は会場開催のみでしたが、オンライン(Zoomを活用)技術も導入し、柔軟な参加形態を設けて実施することが出来ました。</p> <p>・子ども発達支援保護者学習会も、新型コロナ感染拡大防止策のため、人数制限や感染対策を徹底したうえで実施することが出来ました。</p>

評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	・区で対応する児童虐待等の件数は年々増加傾向にあり、事業の必要性は増々高まっています。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	・児童虐待等の相談・通告件数が増加しており、区内の児童虐待防止に対する意識や取組みが向上した現れて、啓発等の効果があったと考えられます。また、子ども発達支援学習会では、コロナ禍での孤立した育児による不安を抱える保護者が多く参加し、アンケートでは88%が「参考になった」、12%が「まあまあ参考になった」と答え、保護者の満足度の高さ、有効性が上がっていると考えます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	・児童虐待の問題を早期発見して適切な支援に繋げることや、重症化の防止、より良い問題解決策に結び付けるための地域ネットワーク構築には、継続した普及啓発活動が必須です。また、要保護児童対策地域協議会及び子ども発達支援保護者学習会の取組み方を、社会情勢や環境変化に適宜対応しながら改善を図ります。	

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	<p>特定妊婦や児童虐待ケースの相談・通告件数は、年々増加しており、本事業の継続実施に対する需要は更に増加しています。今後も、社会情勢や子育て環境、区民ニーズの変化を適宜捉え、要保護児童対策地域協議会及び子ども発達支援保護者学習会の実施方法等を再度検討し、新型コロナウィルス感染予防策を講じて事業を継続実施することで、妊娠前から一環して児童虐待の予防や早期発見・対応を促進すると共に、令和4年度設置の子ども家庭総合支援拠点の体制整備にあたり、本事業を有効活用して、地域における児童家庭相談支援機能の充実に取り組みます。</p>

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	15	20	幸区子ども学習サポート事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			631750		まちづくり推進部 生涯学習支援課		高橋	541-3910	

事業の概要										
事業の概要		NPOとボランティアである区民サポーターが連携して、外国につながる小中学生への学習支援活動と、サポーターの養成を行うことで、区民の主体的な活動を進めます。								
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業	子ども・子育てまちづくり事業費					
		平成24年度	—							
地域の課題と現状		公立学校に転入する日本語を母語としない生徒には日本語指導等協力者が派遣されますが、期間は9か月と限られており、派遣終了後もサポートが必要である児童が大半です。こうした学習支援をさらに継続する必要があります。また、こうした子どもを地域で支えていく観点から、ボランティアの養成も必要です。								
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費	791	636	758	686	758	464	717	616
		国庫支出金								
		市債								
その他特財 一般財源		791	636	758	686	758	464	717	616	

計画 (Plan)	
事業の目的	日本語を母語としない子どもが、学校での学習や日常生活において、日本語を母語とする子どもと同じように言葉や慣習を理解できるようにします。
今年度の事業の取組内容	東小倉小学校で、毎週1回、学習サポート教室を実施します。また、教室の運営状況に合わせて、ボランティア養成講座、もしくは既存ボランティア向けの講座を実施します。

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり		4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等		ほぼ目標通りに実施しました。登録している子どもの数が例年並みなのに対し、新型コロナウイルス感染症の影響で出席児童数が大きく増えることはありませんでしたが、今年度から実施の夏休み宿題教室を幸区役所内の外国人市民情報コーナーで行うなど、新たなニーズや実施に向けての可能性を確認することができました。								
数値で把握することが可能な取組	指標			H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位		
	1	成果指標	登録している子どもの数	目標	15	15	15	15	人	
			実績	17	23	17	21			
	2	成果指標	学習支援ボランティア講座参加者数	目標	10	10	9	10	人	
			実績	11	11	12	10			
3	成果指標	1回あたりの出席児童数平均	目標	8	8	8	8	人		
		実績	7.6	9.7	5.4	6.6				
4	成果指標		目標							
		実績								

評価 (Check)	
事業を取り巻く社会環境の変化	今後、ますます区内の外国人市民は増えることが見込まれます。そのため、外国につながる子どもについても、学習支援体制の仕組み作りが求められます。
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 30 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 今後実施(令和 4 年度から)
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	教育委員会と連携をして継続可能な仕組みづくりに変更できるよう、調整を図ります。

評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	区内の外国人市民は著しく増加しており、その子どもたちの支援として、本事業のニーズも高まるものと見込んでいます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	子どもが言語を理由に学習の遅れや生活に困難が生じないよう、外国人が増加する幸区において地域課題として捉え、支援をしていくことは有効であると考えます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	同内容の寺子屋事業への移行等、効率的に教室運営を行える見直しを行えると考えます。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性 学習支援を必要とする外国につながる子どもは潜在的に多くいるものと考えています。対象児童や保護者に情報が届くよう更に広報手段を検討し、登録した子どもが教室に通い続けられるよう、参加しやすい会場の検討や、より魅力のある教室づくりに努めます。また教育委員会と連携をして継続可能な仕組みづくりに変更できるよう、調整を図ります。	

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	15	30	幸区待機児童対策事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			633250		地域みまもり支援センター児童家庭課		佐々木	62695	

事業の概要										
事業の概要		多様な保育事業に関する情報提供を行い、保育の選択肢を広げ、利用者に対するきめ細やかな相談・支援を実施して待機児童の解消を図ります。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		こども・子育てまちづくり事業		
		平成28年度		—						
地域の課題と現状		年々増加する未就学児の人口及び保育所等利用申請者数の増加に対応するためには、認可保育所以外の保育サービスなどへ保育の選択肢を広げることやきめ細やかな利用者支援が求められます。								
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	事業費	324	203	323	299	323	156	1,108	1,020	
	財源内訳	国庫支出金								
		市債								
その他特財 一般財源		324	203	323	299	323	156	1,108	1,020	

計画 (Plan)	
事業の目的	幸区における待機児童対策として、認可外保育施設である川崎認定保育園等を効果的に紹介します。
今年度の事業の取組内容	令和3年度は、川崎認定保育園リーフレットの内容を更新するとともに、電子媒体での情報提供を活用するなど、経費を削減しつつ効果的に事業を実施します。また新型コロナウイルス感染症拡大防止により、区内保育所等の見学を自由にできない状況となっているため利用者が自宅等において保育所等の状況を知ることができるよう保育所施設紹介映像を作成し、区HPやYouTubeの「幸区チャンネル」で配信します。

実施結果 (Do)								
上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり	4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等	<ul style="list-style-type: none"> ・新年度4月や年度途中の利用申請、相談及びアフターフォローにおいて多様な保育事業の紹介ツールとしてリーフレットや紹介映像を活用し、来庁者にわかりやすい説明を行いました。 ・更新したリーフレットの内容は区のホームページに掲載し、効果的に広く情報提供しました。 ・保育所施設紹介映像は、区HPやYouTubeの「幸区チャンネル」で配信しました。 							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標		H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位
	1		目標					
			実績					
	2		目標					
			実績					
3		目標						
		実績						
4		目標						
		実績						

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	年々増加していた保育所等利用申請者数が減少傾向となり、今後は地域の保育需要の分析が求められています。一方、内定率の低いエリアやクラス年齢の申請者に対しては認可保育所以外の保育サービスなどの周知が重要であり、区民サービスの向上からも引き続き窓口等で活用できる効果的なツールが必要です。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) 令和 2 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)		
具体的見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	情報の提供方法をこれまでの冊子型のガイドブックからリーフレット形式に変更し、必要とされる情報を限定することにより利用者に分かりやすくするとともに、経費を削減しました。新たな生活様式への変化に伴い、利用者が自宅等において保育所等の状況を知ることができるよう保育所施設紹介映像を区HPやYouTubeの「幸区チャンネル」で配信しました		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	保育所入所申請者数は減少傾向ですが、まだ約300人の保留者がいることや対象者も毎年異なることから引き続き対策が必要です。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	多様な保育事業の紹介ツールを活用することなどにより保育事業への認識は向上しており、成果は上がっていると考えられます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	区民のニーズを把握しながら、より効果的な情報提供方法・媒体の検討をしていきます。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I 待機児童解消に向けては、今後も継続した取組が必要です。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、YouTube配信など新たな手法を取り入れつつ、引き続き利用者に向けた多様な保育事業に関する情報提供等を実施していきます。

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	20	30	地域コミュニティ推進事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			631700		まちづくり推進部 地域振興課		伊藤	62351	

事業の概要										
事業の概要		「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づき、町内会・自治会等との連携の推進や、町内会・自治会への加入促進を図るなど、地域コミュニティ活性化に向けて取組を推進します。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		地域コミュニティ活性化事業		
		平成24年度		—						
地域の課題と現状		・区内の町内会等への加入率が近年減少傾向にあり、役員の後継者不足や負担軽減などの課題解決が求められています。								
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	事業費	1,552	1,003	1,552(1,471)	778	394	253	1,554	1,280	
	財源内訳	国庫支出金								
		市債								
その他特財										
一般財源	1,552	1,003	1,552(1,471)	778	394	253	1,554	1,280		

計画 (Plan)	
事業の目的	地域コミュニティの活性化に向けて、町内会・自治会の地域活動の支援等を行います。
今年度の事業の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 町内会・自治会加入促進に向けて、多様な団体との連携を検討し、課題解決のための取組を実施します。 地域活動を支える人材の育成、地域コミュニティの活性化等を目的とした「町内会・自治会活性化講座」を実施します。

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度	3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり		4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等	<ul style="list-style-type: none"> 幸区独自の町内会・自治会加入促進チラシを作成し、区民課の窓口で「転入者セット」に入れて配布しました。 幸区町内会連合会のホームページに各町内会から提供を受けた行事予定を掲載する、インスタグラム等のSNSを活用して若い世代に町内会活動の紹介をするなどWebを活用した情報を発信しました。 町内会・自治会活性化講座については、今年度導入された町内会・自治会活動応援補助金制度をより活用して地域活動を活性化を促すため、令和3年度の申請状況や活用例を紹介し、次年度申請に繋げていくための説明会を開催しました。 									
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標				H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位
	1	活動指標	町内会・自治会活性化講座 参加者数(実績数は、開催が3/25と3/30のため参加募集人数を記載)	目標	100	100	100	100	人	
				実績	80	30	70	140		
	2	活動指標	町内会・自治会加入率	目標	69	68	67	66	%	
				実績	68	67	65	67		
3			目標							
			実績							
4			目標							
			実績							

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	社会意識の変化や高齢者・若者の単身世帯の増加により、町内会・自治会への加入率が減少傾向が続いている。良好な地域社会の維持及び形成に果たす町内会・自治会の役割は依然として非常に大きく、地域コミュニティの安定した運営や活性化に向けて、町内会・自治会の担い手の育成や加入促進を支援する必要があります。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) R 3 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から) 町内会応援補助金制度の活用促進に加え、地域コミュニティの活性化に向けたワーキングショップや町内会長等に対するピアリング等を通じ、課題解決に向けたアイデアの抽出等を行いました。それらを踏まえ、「地域における人とのつながりや関わりが薄い層」に対し、地域活動に参加するきっかけをつくることを目的として、令和4年度に「さいわい縁むす日」を実施する予定です。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	大規模マンション建設等による新たな地域コミュニティづくり必要性、また地域の課題解決、見守りや災害時における自助・互助の関係づくりなど観点からも、本事業の必要性は高いものと考えます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	町内会・自治会の加入率は全市で一番高い(R34時点、全市平均:58.3%、幸区:66.9%)ものの長期的に見て減少傾向にあります。町内会・自治会活性化講座については、引き続き町内会・自治会の課題やニーズを捉えながら、新たな担い手の育成や活動支援、未加入世帯への加入促進等、更なる活性化等に向けた取組が必要です。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	加入促進チラシ等、広報媒体の活用方法を見直すとともに、町内会・自治会が多様な主体と連携し、活動の活性化に向けた機運醸成を図るなど、町内会・自治会が主体的に取り組みを進めて行けるよう、改善を進めていきます。	

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	「川崎市町内会・自治会の活動の活性化に関する条例」の趣旨に鑑み、地域社会において重要な役割を担う町内会・自治会への理解促進や役員等の人材育成のための講座の実施、さらには新規大規模マンションへの自治会の設立支援など、今後も社会環境の変化に応じた取組を検討し、地域社会の活性化に向けた取組を推進していきます。また町内会・自治会の課題やニーズを捉えながら、新たな担い手の育成や未加入世帯への加入促進等、更なる活性化等に向けた取組が必要です。

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	20	10	市民活動等支援事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			631700		まちづくり推進部 地域振興課		齋藤	62355	

事業の概要									
事業の概要		幸区内の市民活動を活性化させることによって、区民が身近な地域課題を考え、解決していくことを支援しています。そのために、幸区市民活動コーナーの管理運営を利用団体や区民と協働で行うこと、市民活動を一般の市民にも知ってもらう発表の場として幸区市民活動交流イベントを開催しています。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		地域コミュニティ活性化事業	
		平成10年度		—					
地域の課題と現状		現在は、かわさき市民活動センターが川崎市全体の中間支援組織として活動資源の需要と供給を結びつけるとともに、市民活動の支援にかかる様々な役割を担っています。今後は、区においても市民主導型の中間支援組織が確立し、市民活動団体が自立し、主体的に活動できるよう環境を整備していく必要があります。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
		事業費		2,447(2,499)	1,639	1,887(1,883)	1,707	1,884(1,871)	1,062
財源内訳	国庫支出金								
	市債								
	その他特財	120	87	120	75	120	45	120	70
	一般財源	2,327(2,379)	1,552	1,767(1,763)	1,632	1,764(1,751)	1,017	1,881(1,830)	965

計画 (Plan)	
事業の目的	幸区で活動する市民活動団体の支援を行い、活動を活性化させることによって、区民が身近な地域課題を考え、解決していくことを目的としています。
今年度の事業の取組内容	区の市民活動の拠点となる幸区市民活動コーナーを利用団体・区民と協働で運営します。市民活動コーナーと外国人市民情報ルームを活用し、登録団体が活動のPR等のイベントや展示会を行えるように、運用方法を一部変更します。また、SDCとの連携を支援します。市民に活動内容を知ってもらい、活動団体同士がつながり、活動を広げるための幸区市民活動交流イベント(年1回)を開催します。

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり		4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等		・区民や利用団体等で構成する利用者の会との協働による幸区市民活動コーナーの運営及び幸区役所展示コーナーの運営により、市民活動団体への活動拠点の提供や広報等を支援しました。 ・公共施設の地域化の考え方を踏まえ、市民活動コーナーについてイベント利用ができるよう運営方法の見直しを図りました。更に、市民活動団体や関係課と連携し、区民向けのイベントを複数回実施し、市民活動の活性化につなげました。 ・3月5日(土)に開催予定であった幸区市民活動交流イベント「はび☆フェス さいわい」は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりましたが、3月に幸区役所1階の展示コーナーにて、出展予定であった団体の活動紹介のためのパネル展示を行いました。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標		H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位		
	1	成果指標	幸区市民活動コーナーの利用登録団体数	目標	63	63	50	50	団体	
				実績	53	48	46	48		
	2	成果指標	幸区市民活動交流イベントの来場者数	目標	250	350	500	350	人	
				実績	360	730	中止	中止		
3			目標							
4			目標							

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		市民および市民団体が主体的に課題解決に向けた取組に関わりを持ち自立を促すとともに、行政には課題解決に向けたコーディネートを行う役割が重要であり、「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づき事業を推進していくことが求められます。	
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) 令和 3 年度 □ 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		公共施設の地域化の考え方を踏まえ、市民活動コーナーについてイベント利用ができるよう運営方法の見直しを図りました。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	地域課題が多様化・複雑化する中、区内で活動する市民活動団体の支援を行い、活動を活性化させることによって、区民が身近な地域課題を考え、解決していくことは重要であると考えます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	市民活動コーナーの利用登録団体数は目標値を下回っているものの、前年度よりは微増となっています。また、「公共施設の地域化」及び「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づき、市民活動コーナーのイベント利用を可能とするなど運営方法の見直しも図り、より効率的・効果的な運営を進められるようになっていきます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	幸区市民活動コーナー及び幸区市民活動交流イベントについては、市民活動団体と協議し団体による主体的な運営を行えるよう、適宜見直しを進めていきます。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性 公共施設の地域化の考え方を踏まえ、市民活動コーナーについてイベント利用ができるよう運営方法の見直しを図り、更に、市民活動団体や関係課と連携し、区民向けのイベントを複数回実施し、市民活動の活性化につなげました。今後も利用団体が自立した運営に向け行政側が様々な団体の活動内容等を把握するとともに、SDCと連携しながら、地域コミュニティの活性化に向けて、見直し、改善を図りながら事業を進めていきます。		

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	20	25	幸区多文化共生推進事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			631750		まちづくり推進部 生涯学習支援課		高橋・小笠原	541-3910	

事業の概要									
事業の概要		地域の外国人市民が年々増えている中、多文化共生に関して生じている地域の課題を具体的に把握し、課題解決に向けた事業を実施します。生活をする上で必要な情報の提供等を行い、異なる文化をもつ市民同士の相互理解を深め、多文化共生の意識を高めます。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		地域コミュニティ活性化事業			
		平成24年度	—						
地域の課題と現状		幸区内の外国人市民数は増加傾向にあり、日本人と、文化の違いを越えて共に生きる地域社会を作る必要があります。そのため、地域の多文化共生意識を醸成する取組が必要です。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	749	749	749	744	749	274	639	363
	財源内訳								
	国庫支出金								
	市債								
	その他特財								
	一般財源	749	749	749	744	749	274	639	363

計画 (Plan)	
事業の目的	幸区に住む外国人市民及び日本人市民が、お互いの文化の相違を認め合い、同じ地域で共に生きる社会を創ります。
今年度の事業の取組内容	多文化共生に関して生じている地域の課題を具体的に把握し、課題の解決に向けた事業として、多文化防災訓練・外国人市民向け生活オリエンテーションを実施します。また、区内の多文化共生に関する地域資源の調査、幸区役所「外国人市民情報コーナー」の助言やサポートを行います。

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度		4		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等		目標を下回りました。今年度新たに視点を変えて、日本に暮らす外国人市民の立場に立った事業「多文化防災訓練」「外国人市民向け生活オリエンテーション」を行い、参加者は少なかったものの日頃知ることの出来ない防災や生活等の疑問が少しでも解消したとの意見もあり、多文化共生社会に貢献しています。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標		H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位		
	1	成果指標	多文化講演会参加者数	目標	600	600	600	—	人	
				実績	450	230	77	—		
	2	成果指標	多文化交流会(フェスタ)来場者数	目標	900	900	900	—	人	
				実績	900	900	中止	—		
	3	成果指標	多文化防災訓練	目標	—	—	—	20	人	
実績				—	—	—	13			
4	成果指標	外国人市民向け生活オリエンテーション	目標	—	—	—	20	人		
			実績	—	—	—	10			

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		今後ますます区内の外国人市民の増加が見込まれます。多文化共生を進める取組が、引き続き求められています。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) 令和 3 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施	
具体的な見直し・改善内容 <small>※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載</small>		令和2年度まで行っていた多文化共生に関する啓発については一定の成果を収めたと考え、啓発講座を縮小しました。今年度からは多文化共生に関して生じている地域の課題を具体的に把握し、引き続き増加する外国人市民の生活に根差した課題をサポートする内容を取り上げ、地域課題の解決に向けた取組へと見直しました。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	区内の外国人市民は昨今著しく増えており、今後も事業ニーズは高まるものと見込んでいます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	新型コロナウイルス感染症の影響で多文化交流会は中止したが、多文化防災訓練や外国人向け生活オリエンテーションを開催したことにより、日頃知ることが出来ない疑問が解消したとの声もあり、成果は上がっているものと考えます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	今後も引き続き増加する外国人市民の生活に根差した課題を取り上げ、関係部署とも連携しながら地域課題解決に向けた取組を進めていきます。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
		外国人市民の生活に根差した課題をサポートする内容を仕様に盛り込み、より実効性のある事業になるように進めていきます。今後は多くの外国人市民に参加を促す方法を進めます。

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	20	50	スポーツ推進事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			631700		まちづくり推進部 地域振興課		蔡	62360	

事業の概要									
事業の概要		地域のスポーツ施設等の資源を活用し、区民の健康及び体力の保持増進を図るとともに、様々な世代の住民同士が障害の有無に関わらず、スポーツをとおして交流が図られるよう、取組を進めます。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業	地域コミュニティ活性化事業				
		平成23年度	—						
地域の課題と現状		スポーツを通じて地域の活性化や区民の健康増進を効果的に推進していくためには、多様な主体と連携して誰もがスポーツに参加しやすい環境を整えていく必要がありますが、事業内容や参加団体の固定化も見られることから、オリンピック・パラリンピックの開催等をきっかけに、これまでスポーツに関わることの少なかった区民に対しても、積極的に事業を展開していく必要があると考えられます。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	1,209	943	1,055	229	917(912)	131	767(765)	429
	財源内訳								
	国庫支出金								
	市債								
	その他特財								
	一般財源	1,209	943	1,055	229	917(912)	131	767(765)	429

計画 (Plan)	
事業の目的	地域で気軽にスポーツに触れることのできる機会を提供することにより、区民の健康及び体力の保持増進を図るとともに、スポーツを通じて住民同士の交流が生まれ連帯感が高まることで、活力のある明るく住みよいまちづくりに資することを目的とします。
今年度の事業の取組内容	・各種スポーツ大会の表彰支援 ・かわさきスポーツパートナーや地域団体等と連携したバラスポーツ体験会等の開催

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等	<ul style="list-style-type: none"> 少年野球、少年サッカー等、地域でスポーツ推進に取り組む団体主催による大会はそのほとんどが中止となりましたが、実施した大会に対して区長杯を贈呈し、身近な機会でのスポーツの振興に取り組めました。 これまで世代間交流を目的として実施してきたグラウンドゴルフ大会について、実施手法等の見直しについて区内のスポーツ関係団体との協議の上、主に子育て世代を対象としてスポーツ実施率の向上や多世代交流を目的とした「スポマル! さいわい」を初開催しました。 地域のスポーツ関係団体と連携して、ビーチバレーで東京オリンピックに出場した石島雄介選手によるバレーボール体験会を開催しました。 新型コロナウイルスの感染状況を注視しながら、学校や子ども文化センターでのポッチャ体験会を延べ3回実施しました。 新型コロナウイルスの感染対策を徹底した運営方法でバラスポーツ体験会を開催し、ポッチャと車いすバスケを体験する機会を設けました。 地域でのバラムーブメントに対する機運の醸成に向け、地域におけるポッチャ講習会の開催やポッチャ用具の貸し出しを積極的にを行い、約1300人の区民がバラスポーツを体験しました。 								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標		H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位	
	1 成果指標	講演会の参加者数	目標	150	100	100	—	人	
			実績	75	30	中止	—		
	2 活動指標	地域スポーツ団体に対する表彰回数	目標	—	9	9	5	回	
			実績	—	9	5	2		
3 活動指標	ポッチャ体験会開催回数	目標	—	10	10	10	回		
		実績	—	17	8	3			
4 成果指標	バラスポーツ体験会の参加者数	目標	50	200	200	200	人		
		実績	80	1,500	中止	75			

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	バラムーブメントを地域スポーツ振興のレガシーとしていくために、区民が一体となった取組の推進を図る必要があります。		
事業の見直し・改善内容	■ 実施 (直近) R 3 年度 □ 今後実施(平成 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	世代間交流を目的として実施してきた事業について、区内のスポーツ関係団体の参画により見直しを行い、子育て世代のスポーツ実施率向上やバラスポーツ実施率向上を目指した新たなイベントを実現した。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	東京オリンピック・パラリンピックのレガシーを未来に遺していくため、区民を巻き込んだ取組を進める必要があります。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	新型コロナウイルス感染症に係る大幅な行動制限の中、可能な限り地域でのバラスポーツの普及に取り組めました。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	新たなイベントの実施を通じて、区内のスポーツ関係団体の連携を図り、時機と課題を捉えた取組を進めていく必要があります。障害の有無に関係なく多世代で楽しめるポッチャへのニーズが高いことから、更なる普及に向け、スポーツ関係団体等と連携した取組を進める必要があります。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II 今年度新たに実施した「スポマル! さいわい」については、実施結果を検証し、更なる効果的な展開に向けて検討を進め、次年度以降も継続的に実施していきます。地域でのバラムーブメントの浸透を図るため、区内のスポーツ関係団体等と連携して区民ポッチャ大会の開催について企画検討し、ポッチャを通じて、障害の有無にかかわらず多世代の交流が広がるような取組を進めていきます。

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	20	35	コミュニティカフェ推進事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			631750		まちづくり推進部 生涯学習支援課		松本	541-3910	

事業の概要											
事業の概要		様々な区民が参加し交流する機会を提供し、区民同士の交流と地域活動を始めるきっかけづくりを行います。									
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		地域コミュニティ活性化事業					
		平成26年度	—								
地域の課題と現状		地域のつながりが希薄になってきているという現状に対処するため、コミュニティカフェ等、区民同士が交流する場を用意して地域の活性化につなげていくことが求められています。									
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額		
		事業費		233	233	233	233	233	150	224	191
		財源内訳		国庫支出金							
		市債									
		その他特財									
		一般財源		233	233	233	233	233	150	224	191

計画 (Plan)	
事業の目的	多様な主体が出会い、つながるとともに、市民が自ら地域の課題解決や活動・交流に参加していけるよう支援します。
今年度の事業の取組内容	公募による実行委員会にて効果的な交流の場を検討し、繋がりを大切にしたいイベント等を開催します。また地域活動団体の情報の収集及び情報発信を行います。

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った								
取組内容の実績等	目標通りに達成できました。今年度はモデル事業を5回開催し、地域団体や個人提案、市役所内の他部署や一般企業、市立高校生ボランティア等と協働することで、本格実施に向けてのさまざまな方向性を見出すことができました。刻々と変化する地域課題解消に向けた事業等を関係各所と協働で行うことで、問題解決に努めました。事業の参加者からは「また参加したい」との声が多数上がっており、コミュニティ推進の成果は上がっていると考えます。									
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標				H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位
	1	成果指標	コミュニティカフェ参加者	目標	330	360	390	300	人	
				実績	352	390	55	552		
	2			目標						
				実績						
3			目標							
			実績							
4			目標							
			実績							

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	地域のつながりが年々希薄になっている中、災害等の発生で地域コミュニティの大切さが見直されています。地域の交流を促し、活性化させる取組はますます重要となっています。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) 令和 3 年度 <input type="checkbox"/> 実施予定 具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載 今年度から新たにモデル事業を実施し、さまざまな形態のコミュニティ推進を活性化するための方法を公募型実行委員会と考えています。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	地域のつながりの希薄化は年々進んでいる一方で、新しい住民も増加しており、本事業のニーズは高まっているものと考えます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	様々な年齢層を対象としたモデル事業を実施し、良好な参加者からの意見も多く聞かれ、一定の成果があるものと考えます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	県のモデル事業の活用等、経費が掛からない方法での事業の実施を行うなど、引き続き経費削減に向けた効果的な事業展開を図っていきます。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	20	45	区民祭開催経費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			631600		まちづくり推進部 総務課		氏原	62112	

事業の概要									
事業の概要		地域に密着した事業である幸区民祭の開催を支援し、新旧区民の交流と連帯を深め、地域コミュニティの活性化を進めます。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		地域コミュニティ活性化事業	
		—		—					
地域の課題と現状		新川崎・鹿島田駅周辺地区の再開発等により幸区においても人口が増加している中で、新旧区民のコミュニティを形成・発展させていくことが重要な課題となっています。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	247	247	235	235	224	0	213	0
	財源内訳								
	国庫支出金								
	市債								
	その他特財								
	一般財源	247	247	235	235	224	0	213	0

計画 (Plan)	
事業の目的	「こころのふれあう ふるさとさいわい」を合言葉に区民の笑顔と活力があふれる地元ならではのまつりを目指します。
今年度の事業の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・出店者へのルールの徹底など昨年度の課題を踏まえ、来場者が安全に楽しめるよう取り組みます。 ・来場者が混乱しないようコロナ対策を徹底します。

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度		5		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり		4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等		感染症対策での実施を検討しましたが、新型コロナウイルスの拡大により中止となりました。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標		H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位		
	1	成果指標	参加団体数	目標	90	100	100	50	団体	
				実績	117	117	—	—		
	2			目標						
				実績						
	3			目標						
実績										
4			目標							
			実績							

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		新川崎・鹿島田駅周辺地区の再開発等により幸区においても人口が増加傾向にある中で、防災等の面から新旧区民が普段からお互いを理解し、協力しあえる関係性を醸成していくことが重要です。また、新たに転入してきた住民に対し、幸区に愛着を持ち、歴史・制度等を理解してもらう機会を増やすことが重要です。更に、2年間新型コロナウイルスの影響により中止となっているため、実施にあたる関係者の関係性の再構築及び開催方法の見直しが必要です。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 31 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		<ul style="list-style-type: none"> ・地元アイドルグループをゆめ広場中央舞台の総合司会に採用するなど地域資源の活用を積極的に行い、お祭りとして更に盛り上げる企画を実施しました。 ・持続可能なイベントにするため、多くの設置費がかかっていたエアートランポリンを廃止することで収支バランスを改善し、予算額の縮減を図りました。また、令和元年度よりパラムーブメントコーナーでポッチャ体験やパラアートの展示を行い、新たな賑わいを創出しました。 	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	感染症拡大によりあらゆるイベントが中止となっていますが、幸区最大のイベントとして出店希望者数や出演希望者数はここ数年同程度(区民祭のキャパシティでほぼ最大)であり、依然として事業ニーズは高いと考えられます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	舞台出演や出店、展示、運営のボランティア等で参加する団体は増加しています。ポスターを町内掲示板やホームページ等に掲載することで効果的に広報できており、当日もパンフレットを配布することで催しもの等を周知できています。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	感染症拡大の影響により実施内容の大幅な見直しを検討する必要がありますが、区民祭の魅力を維持しつつ改善を進めていきます。また、幸区制50周年のため、50周年プロジェクトの内容も組み込めると考えるため。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II 新型コロナウイルス感染症に配慮する必要はありますが、コミュニティの形成・発展には継続的な活動が重要であり、今後も新旧区民の交流の機会をもつことが重要であることから、より魅力ある内容としながら実施することが適切であると考えます。

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	25	05	地域防災活動推進事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			630000		危機管理担当		岡	62353	

事業の概要									
事業の概要		幸区における地域住民、企業、関係団体等と行政が大規模災害に備え、必要な対応策の協議・検討を行うとともに、防災・減災に関する情報収集・共有を図るため、幸区災害対策協議会を運営するなど、地域防災力の強化に向けた取組を推進します。							
実施期間		事業開始年度 平成25年度		事業終了年度 —		予算中事業		安全・安心まちづくり事業	
地域の課題と現状		幸区における地域住民、企業、関係団体等と行政が、平常時から緊密な連携を図りながら、大規模災害の発生に備えた対応策の検討・実施や、防災関連情報の共有化を推進していくことが求められています。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
財源内訳	事業費	1,111(1,101)	877	966(1,018)	645	789	390	760(740)	327
	国庫支出金								
	市債								
	その他特財								
	一般財源	1,111(1,101)	877	966(1,018)	645	789	390	760(740)	327

計画 (Plan)	
事業の目的	幸区における地域住民、企業、関係団体等と行政の連携により、地域防災力の強化を進め、区民の生命と財産を守ります。
今年度の事業の取組内容	幸区災害対策協議会の「全体会」のほか、「医療救護部会」「要援護者支援部会」「帰宅困難者対策部会」「地域防災連携部会」の4つの部会における、分野別の各種課題に関する必要な対応策の協議・検討と、関係機関・団体と連携した訓練等を実施します。

実施結果 (Do)								
上記取組内容に対する達成度	4		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり	4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等	幸区災害対策協議会全体会及び各部会については、新型コロナウイルス感染症の影響により、書面開催等の手法も活用し開催しました。訓練に関しては、二次避難所等情報受伝達訓練(プレ訓練11/30、本訓練1/18)、ロジスティクス研修(12/9)、川崎駅周辺帰宅困難者対策訓練(2/25)等を実施しました。なお、区の総合防災訓練については、新型コロナウイルス感染症の影響により秋の訓練は延期、春の訓練については動画撮影やオンライン配信を活用し実施しました。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標		H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位
	1 成果指標	各種訓練等(参加者数)	目標	1,500	1,500	1,500	1,500	人
			実績	680	2,600	4100	250	
	2		目標					
			実績					
3		目標						
		実績						
4		目標						
		実績						

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	近年、大規模災害が頻発しており、平成30年6月の「大阪府北部地震」、平成30年7月の「西日本豪雨」、令和元年10月の「令和元年東日本台風」等の発生、また、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、地域住民、企業、関係団体等と行政の連携による地域防災力の強化の必要性が高まっています。		
事業の見直し・改善内容	■ 実施 (直近) R 3 年度 □ 今後実施(平成 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	令和元年度には、「令和元年東日本台風」に係る災害対応を踏まえ、従前の大規模地震想定訓練から、洪水想定訓練として実施しました。また、令和2年度には、避難所における新型コロナウイルス感染症対策として、「風水害時緊急避難場所運営マニュアル」の見直しを図りました。さらに、令和3年度には、避難情報発令基準や高潮浸水想定区域の見直し、新型コロナウイルス感染症対策による、避難者の受入れ態勢の変更等を踏まえ、各種マニュアルの見直しを図りました。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	平成30年6月の「大阪府北部地震」、平成30年7月の「西日本豪雨」、令和元年10月の「令和元年東日本台風」等、近年、大規模災害が頻発しており、事業のニーズは更に高まっていると考えられます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	各訓練等においては、新型コロナウイルス感染症の影響で訓練規模の縮小等もあつたが、事業全体を通し地域防災力の強化を進められました。また、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた避難所開設・運営を見直すことで、着実に成果が上がっているものと考えられます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	幸区災害対策協議会委員等とも協議を行いながら、これまでに訓練に参加したことのない区民や防災協力事業所等の参加など、訓練の実施内容の見直し等による改善を進め、広く区民の防災意識の高揚及び災害対応力の向上を図ります。	

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	大規模災害の発生やコロナ禍における災害対応等、更なる地域防災力の向上が求められていると考えられることから、事業の目的や方向性は維持するものの、適切な見直し、改善を行いながら、引き続き事業を実施していくことが必要と考えられます。

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	25	25	幸区災害対策推進事業			
担当			所属コード	所属名		担当者	連絡先		
			630000	危機管理担当		岡	62353		

事業の概要										
事業の概要		訓練の運営支援や講座等の開催による自主防災組織・避難所運営会議の活性化、地域住民や企業、関係団体・機関等との連携による実践的な総合防災訓練の実施、区本部・避難所の防災資器材の充実など、区内の防災基盤整備の取組を進めます。								
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		安全・安心まちづくり事業				
		平成25年度	—							
地域の課題と現状		市民主体の避難所運営等の必要性や、区本部の機能強化に向けた、防災資器材の計画的な配備がより強く求められています。								
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	事業費	5,201	4,842	6,014	4,885	9,075	7,315	5,792(5,492)	4,085	
	財源内訳	国庫支出金								
		市債								
その他特財										
一般財源	5,201	4,842	6,014	4,885	9,075	7,315	5,792(5,492)	4,085		

計画 (Plan)	
事業の目的	本市周辺で発生が想定される大規模災害に備え、地域防災力の強化を進め、円滑な災害対応に向けた体制構築をし、区民の生命と財産を守ります。
今年度の事業の取組内容	令和元年東日本台風時の経験を踏まえ、震災のみならず、風水害を想定した区内避難所(22か所)での避難所開設・運営訓練、地域住民や企業、関係団体・機関等との連携による実践的な訓練、地域住民との協働による、地区防災計画の策定、洪水避難を想定した防災資器材等の充実・強化、自主防災組織等の活性化に資する講座等を開催します。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度	4		1. 目標を大きく上回って達成	4. 目標を下回った					
			2. 目標を上回って達成	5. 目標を大きく下回った					
			3. ほぼ目標どおり						
取組内容の実績等	幸区内避難所における「避難所運営会議・訓練」の実施、防災資器材を配備(簡易テント、エアマット(要配慮者対策)、防災備蓄倉庫の感染症対策物資(衛生用品等)の追加配置、避難所開設キットの整備等)しました。また、「幸区防災講演会」については、講演内容を動画撮影・配信を行い、各自自主防災組織に配布することで、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努め実施をしました。 避難所運営会議・訓練では、昨年度から継続し、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた各避難所ごとのマニュアルの確認・更新を行い、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、一部中止となりましたが、その中で工夫しながらコロナ禍における避難所開設・運営の図上訓練を実施し、地域防災力の強化を進めることができました。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標			H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位
	1 活動指標	避難所開設・運営訓練(開催回数)	目標		23	23	23	23	回
			実績		22	23	22	14	
	2 成果指標	避難所開設・運営訓練(参加者数)	目標		1,150	1,150	1,150	1,150	人
			実績		1,350	1,200	400	195	
3 成果指標	自主防災組織等活性化講座(参加者数)	目標		300	300	200	200	人	
		実績		200	77	450	-		
4 活動指標	地区防災計画WS(参加者数)	目標		-	-	80	80	人	
		実績		-	-	40	10		

評価 (Check)	
事業を取り巻く社会環境の変化	近年、大規模災害が頻発しており、平成30年6月の「大阪府北部地震」、平成30年7月の「西日本豪雨」、令和元年10月の「令和元年東日本台風」等の発生、また、新型コロナウイルス感染症対策等、地域住民、企業、関係団体等と行政の連携による地域防災力の強化の必要性が高まっています。
事業の見直し・改善内容	■ 実施 (直近) R 3 年度 □ 今後実施(平成 年度から)
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	令和元年川崎市総合防災訓練では、自主防災組織委員等が主体的に実施する「避難所一斉開設訓練」を行いました。また、令和2年度には、「令和元年東日本台風」の発生や新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、各避難所における「風水害時の緊急避難橋所運営マニュアル」の改訂やコロナ禍における避難所運営に関わる備蓄物資の整備を行いました。 令和3年度には、避難情報発令基準や高潮浸水想定区域の見直し、さらには、継続した新型コロナウイルス感染症対策として、避難者の受入れ態勢の変更等、各種マニュアルの見直しを図りました。

評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	平成30年6月の「大阪府北部地震」、平成30年7月の「西日本豪雨」令和元年10月の「令和元年東日本台風」等、近年、大規模災害が頻発しており、事業のニーズは更に高まっていると考えられます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	新型コロナウイルス感染症の影響で、各種取り組みへの参加人数は減少したものの、開催補法の工夫等を行い、事業全体を通し地域防災力の強化を進め、着実に成果が上がっているものと考えられます。中でも、避難時の行動計画として「マイタイムライン」の啓発活動を行うことで、市民の防災意識の向上が図れたと考えられます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	平成29年から全避難所での訓練実施の経験を通じて、今後は、各自自主防災組織が中核となっている避難所運営会議において、主体的な訓練の企画・実施が期待できるものと考えられます。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性 大規模災害の発生により、更なる地域防災力の向上が求められていると考えられることから、事業の目的や方向性は維持するものの、適切な見直し、改善を行いながら、引き続き事業を実施していくことが必要と考えられます。		

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	25	15	交通安全普及啓発事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			630000		危機管理担当		鹿山	62354	

事業の概要									
事業の概要		区内での自転車交通事故等の現状を踏まえて、幅広い世代に対して交通安全意識の向上を図るため、交通安全教室などを通じて、交通安全知識の習得などを目的とした啓発活動を行います。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		安全・安心まちづくり事業			
		平成18年度	—						
地域の課題と現状		幸区内の交通事故発生件数は減少傾向にあるものの、自転車に関する交通事故の発生割合が29%を超え、県内平均を上回る高い割合となっており、県内における自転車事故多発地域に指定されています。また、近年、自転車事故による多額の賠償例や、高齢者に関係する事故の増加等が社会的な問題となっており、幸区においても自転車や高齢者に関係する交通事故の発生割合がいずれも高い水準にあります。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	1,727	1,518	1,727	1,109	1,764	1,473	1,647	1,187
	財源内訳								
	国庫支出金								
	市債								
	その他特財								
	一般財源	1,727	1,518	1,727	1,109	1,764	1,473	1,647	1,187

計画 (Plan)	
事業の目的	幸区内の自転車関係事故の発生割合は依然と高く、県下でも有数の自転車事故多発地域となっていることから、自転車事故を減らし、安全で住みよい幸区の実現を目指すために、区民一人ひとりの交通安全意識の高揚を図り、交通事故を防止するために啓発活動を実施します。
今年度の事業の取組内容	小学校1年生・3年生を中心に、中学生、保育園児や、世代に応じた交通安全教室を実施するほか、各季(春・夏・秋・年末)の交通安全期間中及び各強化月間において啓発活動等を実施します。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等	今年度の小学校、中学校の交通安全教室については、自転車実技指導を自転車シミュレーターを活用して実施しました。小学校の交通安全教室以外でも、町内会、子ども文化センター、高齢者向けの交通安全安全教室にて自転車シミュレーターを活用し、幅広い世代に対して教育、啓発を行いました。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標		H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位	
	1	活動指標	各交通安全教室総実施回数	目標 50 実績 48	48 49	48 19	49 50	回	
	2			目標 実績					
	3			目標 実績					
	4			目標 実績					

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	区内の自転車関係事故の割合(令和2年度:29.1%、県下ワースト12位)は依然と高く、近年ではスマートフォンやイヤホンを着用した「ながら運転」が問題となっています。また、自転車運転者が被害者のみならず加害者となり高額な賠償を求められるケースが増えており、自転車事故に関する賠償責任保険への加入促進が課題となっています。さらに、高齢化率の上昇に伴う高齢者関係事故の割合も増加していることから、高齢者の交通事故防止も注力していく必要があります。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) 令和 2 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から) 具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		
	令和2年度:より効果的な交通安全教育を推進するため、自転車シミュレーターを活用した交通安全教室(対象:小学校3年生)を実施しました。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	「ながら運転」による自転車関係事故割合や高齢化に比例して高齢者の関係事故が増加しており、事業のニーズは高いと考えられます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	自転車交通事故多発地域の構成率順位が、令和元年度の8位から令和2年度は12位に減少しました。 【人身交通事故R1:333件→R2:261件(内自転車関係事故R1:101件→R2:76件、構成率R1:30.3%→R2:29.1%)】	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	交通安全教室などの実施手法が確立しており、事業を円滑に実施できていることから、当面は現状のまま継続していきたいと考えています。	

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I	交通事故死亡者数が減少している一方で、自転車交通事故多発地域として指定されており、引き続き自転車交通事故防止のための広報啓発活動を継続していきます。

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	25	10	安全・安心まちづくり普及啓発事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			630000		危機管理担当		吉田	62354	

事業の概要											
事業の概要		区民が安全かつ安心して暮らせるまちづくりを目指すため、「自分たちのまちは、自分たちで守る」という心がけを住民一人ひとりが持つことが出来るよう、意識の高揚を呼びかける啓発活動を実施します。									
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		安全・安心まちづくり事業			
		平成17年度		—							
地域の課題と現状		幸区内においても、振り込め詐欺等、金銭詐取や主に高齢者を対象に子どもを騙った携帯電話に関する犯罪等が日常的に起こり得る状況にあり、防犯対策を迅速に講ずることが求められることから、警察や地域の防犯団体と連携した活動を継続していく必要があります。									
予決算 (単位:千円)	財源内訳	年度		H30年度		R01年度		R02年度		R03年度	
				予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
		事業費		431	382	463	416	463	96	345	167
		国庫支出金									
		市債									
		その他特財									
		一般財源		431	382	463	416	463	96	345	167

計画 (Plan)	
事業の目的	地域の防犯・防火関係団体や町内会・自治会と協力して啓発活動を行い、防犯・防火意識の醸成を図りながら、犯罪や火災を減少させて、安全で安心して暮らせるまちづくりを目指します。
今年度の事業の取組内容	特殊詐欺や放火防止等を呼びかける街頭キャンペーン、毎月1日・10日の子ども安全の日に行う防犯パトロール、町内会等への防犯パトロールベストおよび誘導灯の貸出による自主防犯パトロールを促進するとともに、幸警察署生活安全課と連携した特殊詐欺注意喚起庁内放送を実施します。

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり		4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等		・ラゾーナ川崎プラザルーフ広場において年末のくらしの安全に関する年末街頭キャンペーンを実施しました。 ・毎月1日・10日の子ども安全の日に見守り隊時に青色防犯灯点灯した公用車2台による防犯パトロールを定期的に行いました。 ・自治会等に対する防犯パトロールベスト等の貸出により自主防犯パトロールを促進しました。(4団体計30着) ・幸警察署生活安全課と連携して年末年始特別警戒にかかる周知映像を庁内で流しました。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類		指標			H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位
	1	活動指標	安全・安心街頭キャンペーン	目標	2	4	2	2	回	
				実績	4	3	1	1		
	2			目標						
				実績						
	3			目標						
実績										
4			目標							
			実績							

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化			
事業の見直し・改善内容		<input type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 30 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載			
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	区民アンケート、高校生アンケートにより安全安心なまちづくりに対する関心が高かったため	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	コロナ禍においても、安心して活動できるよう工夫して参加しやすい啓発を行ったため。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	主に地域住民の自治活動が主となるため。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性 コロナの感染拡大状況を見据えながら、団体が安全に活動を継続できるようキャンペーンを行っています。		

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	25	30	案内サイン設置事業			
担当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			631650		まちづくり推進部 企画課			名蔵	62125

事業の概要										
事業の概要		案内サインの新設及び更新を通じて、主要駅や道路から区役所・市民館等への経路案内を充実し、日常及び災害時における来訪者を関係施設へ円滑に誘導します。								
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		安全・安心まちづくり事業				
		平成27年度	令和3年度							
地域の課題と現状		既存案内サインについて、適切かつ計画的に盤面情報を更新していく必要があります。								
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
		事業費	2(54)	53	2	0	2	0	2	0
		財源内訳	国庫支出金							
		市債								
		その他特財								
		一般財源		2(54)		53		2		0

計画 (Plan)	
事業の目的	区役所や市民館などの関係施設へ円滑に誘導するための案内サインの作成及び設置を行うとともに、既存サインの盤面情報を計画的に更新します。
今年度の事業の取組内容	平成29年度までで区内の案内サインの整備・盤面更新計画は一旦完了しましたが、既存サインの破損や故障、施設名称の変更など至急修理・修正等が必要な場合に適切に対応します。

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度	3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等	既存サインの破損や故障、施設名称の変更など至急修理・修正等が必要なケースが発生しなかったため、取組実績はありません。									
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標				H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位
	1	目標								
		実績								
	2	目標								
		実績								
3	目標									
	実績									
4	目標									
	実績									

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	幸区における外国人人口の増加や、川崎駅西口周辺の商業・業務施設の賑わいによる外国人来訪客も引き続き見込まれること等から、外国人の利便性にも配慮した盤面表記とする検討が必要と考えます。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 28 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)		
具体的見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	案内サインの新設が一定程度終えたことから既存サインの盤面を破損や老朽化等がある場合に更新することとし、予算規模の見直しを図りました。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	土地勘のない区外等からの来訪者に対する駅周辺の回遊性や利便性向上のためにも非常に重要であると考えられます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	盤面の計画的に更新により、利便性は着実に向上しているものと考えられます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	広告収入を活用した既存案内サインの維持管理の手法について検討する必要があるものと考えます。	

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I	案内サインの設置及び更新を行うことは、区外や外国人の来訪者などへの利便性の向上に繋がる取組であり、今後も社会環境の変化等を踏まえながら、必要に応じたサインの設置・更新について継続して実施します。なお、地域課題対応事業としては、次年度以降「幸区情報発信推進事業」に統合する形で、継続して実施する。

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称	
款	項	目	大	中	小		
11	01	03	26	45	05	区民に身近な区役所づくり推進事業	
担当			所属コード	所属名		担当者	連絡先
			633300	区民サービス部 区民課		志村・斎藤	62234

事業の概要									
事業の概要		窓口サービスの円滑な提供のため、窓口混雑の緩和や待ち時間の短縮が課題であることから、転入世帯向けの届出案内書類を事前配布すること等により、区民が快適に区役所を利用するための環境づくりを推進します。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業	区役所サービス向上事業				
地域の課題と現状		区画整理事業が進み、新川崎駅や鹿島田駅周辺の大規模マンション建設と市・県営住宅の老朽化による建て替えに伴い、人口増加が今後も予想されています。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R2年度		R3年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	235	184	235	162	183	115	217(277)	242
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
		その他特財				100		55	
		一般財源		235		184		235	
				162		83		60	
								51	
								76	

計画 (Plan)	
事業の目的	市民サービスの向上と業務の迅速化及び効率化に向けた継続的な窓口サービス向上に取り組み、区役所サービスの一層の改善を図ります。
今年度の事業の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 12月に日吉地区で680世帯の入居の開始が予定されている大規模マンションの大量転入が予想される中、混雑緩和のため、事前に販売管理業者への連絡のうえ、届出のための関係書類を事前に配布するなどの調整を行います。 令和2年12月未だから令和3年3月中旬にかけて、地方公共団体情報システム機構(J-LIS)からマイナンバーカード未取得者宛てに、QRコード付申請書を送付した影響による、マイナンバーカード申請の急増に伴う混雑緩和の対応を検討します。

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり		4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等		<ul style="list-style-type: none"> 新規大規模マンション等の入居者への転入手続きに関する対応については、小倉地区の約600戸数ある「クレストプライムレジデンスプロムナード七番街」の、8月23日(月)から8月26日(木)の4日間に渡って行われた事前入居者説明会に赴き、申請書等の事前配布、入居者向けの説明を行いました。 1月から稼働の新たな区役所事務サービスシステムの稼働に向けたレイアウト変更に伴う、マイナンバーカード交付窓口の端末増設、既存の窓口呼出システムの改善、フロア案内の増員により、マイナンバーカード交付窓口の混雑緩和に努めることができました。 年度末・年度初めにおける窓口待ち時間の平均(発券機データ上)は前年より短縮されていますが、これは、一番混雑する住所変更の窓口の来庁者件数が前年より7%減になっていたことが要因のひとつであり、新型コロナウイルスによる影響が反映されているものと考えられます。 								
数値で把握することが可能な取組		指標分類	指標			H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位
		1 成果指標	年度末・年度初めにおける窓口待ち時間平均(令和3年3月23日～令和3年4月4日)	目標	13	6	6	10		分
				実績	6.6	11.8	11	6.1		
		2		目標						
				実績						
		3		目標						
				実績						
		4		目標						
				実績						

評価 (Check)	
事業を取り巻く社会環境の変化	マイナンバーカードについて令和4年度を目途にほぼ全ての国民が取得することが閣議決定されたことに伴い、今後もマイナンバーカードの申請やカードに付帯する電子証明書に係る申請が大幅に増加することが予想され、窓口の混雑が見込まれます。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) 令和2年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	R2年度: 契約更改により、窓口呼出番号表示システムを新たにリニューアルしました。 H31年度・令和2年度に契約更改となる窓口呼出番号表示システムのリニューアルに向けて、区内で検討会を立ち上げました。 H30年度: 子ども連れの親子の来庁が多く、玩具を支給する等のサービス向上を図りました。 H29年度: 引き続き、「転入・転居の手続」案内と必要書類の、大型マンション・寮への事前配布を行いました。 H28年度: 「転入・転居の手続」案内の見直し、大型マンション・寮に事前配布し、必要書類の事前配布を行いました。 H27年度: 混雑緩和と待ち時間の短縮について、大型マンションの販売業者に入居時期などを確認し、各種届書類等の事前配布と窓口呼出番号表示システムを導入し、窓口の待ち人数情報の配信と行政情報等の放映を行いました。

評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	マイナンバー交付に係る手続き件数の増加が予想されてくることから、事業のニーズは高いと考えられます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	新たな窓口呼出しシステムの活用や、フロア案内の増員対応により、窓口での受付手続きがスムーズに行えました。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	引き続き、職員間の情報共有や研修等により業務知識の習得とともに区役所サービスの質を高める余地はあると考えられます。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性		
令和4年1月から稼働が開始となった新たな区役所事務サービスシステム(届書がなくなり市民が事前にパソコンから入力してくる方式)の効果的活用、新たなマイナポイント制度導入に伴い見込まれるマイナンバーカード交付手続きの増加に伴う対策といった、時流に応じた窓口混雑緩和の対応を、引き続き検討していきます。また、区役所サービス品質向上推進委員会と連携を取りながら、区役所全体のサービス向上に努めます。		

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	45	10	幸区情報発信推進事業			
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			631650		まちづくり推進部 企画課		岩田	62126	

事業の概要												
事業の概要		区の地域課題解決への取組や区政情報・地域資源等を区民に親しみやすく広報するなど、情報発信の強化と充実を図ることを目的に、区独自の広報紙である「さいわい広報特別号」を発行し、新聞折込のほか、区内公共施設への配架、各種イベントや会議等で区民に配布します。										
実施期間		事業開始年度 平成20年度		事業終了年度 —		予算中事業		区役所サービス向上事業				
地域の課題と現状		区役所が実施する事業は、地域特性や区民ニーズを的確に捉えた取組であり、それらをより多くの区民に知ってもらう必要があります。写真やイラストを多用し、目を引く、分かりやすい紙面作成を行っています。										
予決算 (単位:千円)	年度	事業費	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度			
			予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額		
		財源内訳	国庫支出金	0								
			市債	0								
			その他特財	0								
一般財源	3,006(2,722)	1,702	857(795)	687	839(697)	683	504	394				

計画 (Plan)	
事業の目的	区の地域課題解決への取組や区政情報・地域資源等を区民に親しみやすく広報するなど、情報発信の強化と充実を図ることを目的としています。
今年度の事業の取組内容	さいわい広報特別号を発行し、主要紙7社(朝刊)への一斉折込と区内公共施設への配架、各種イベントや会議等での配布を通じて区民への情報発信を行います。また、地域課題の解決に向けた区民への啓発のための情報発信等を行います。

実施結果 (Do)								
上記取組内容に対する達成度	3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり	4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等	川崎駅西口周辺の昔から今までの発展の経過や今の魅力を伝えることを目的として、2月にさいわい広報特別号を84,000部発行した。配布方法について、当初予定していた新聞折込による配布を見直し、より区民に情報が行き渡るよう全戸ポスティングにより配布するとともに、川崎駅西口周辺の関係者が集まる地域デザイン会議において配布を行った。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標		H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位
	1 活動指標	さいわい広報特別号発行部数	目標	96,000	48,000	32,200	32,200	部
			実績	48,000	32,200	33,000	84,000	
	2		目標					
			実績					
3		目標						
		実績						
4		目標						
		実績						

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	スマートフォン等の普及により情報を得る手段が多様化している中、今後ますます高齢化が進む幸区においては、紙媒体による広報は一定のニーズがある手段と考えられます。		
事業の見直し・改善内容	■ 実施 (直近) R 3 年度 □ 今後実施(平成 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	R3:より効果的な発信のため、市政だよりと同様に、全戸ポスティングによる配布に変更しました。(区の新たな課題即応事業費を活用) R2:紙面製作業務と印刷・配布業務を一本の契約で行うことにより、契約事務の簡素化を図りました。また、特集の内容に応じて配布先の見直しを行いました。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	市民ニーズが複雑化・多様化している中、区民の理解と信頼を得ながら、区民満足度の高いまちづくりを進めていくためには、市政運営等について、より分かりやすく、かつ伝わるように情報発信する必要があります。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	令和2年度幸区区民アンケートの結果では、さいわい広報特別号から行政情報を入手している割合が前回より増加したため、一定の成果があると考えます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	同様に全戸ポスティングにより配布する他の広報紙を含めて、効果的・効率的な区の広報について、今後検討する必要があります。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性 さいわい広報特別号は、地域特性や区民ニーズを的確に捉えた特集を計画的に発行しています。幸区における各地域課題対応事業において、多様な広報媒体で情報発信しており、内容の重複等も考慮し、発行内容の精査など見直しを図りながら、ターゲットに的確な区政情報等が伝えられるよう、事業を進めていきます。		

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	40	05	幸区提案型協働推進事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			631650		まちづくり推進部 企画課		岩田	62126	

事業の概要											
事業の概要		地域の課題を地域自ら解決していくことを目指して、地域の課題の解決に資する公益性の高い事業を実施できる市民活動団体等を公募して、協働型の事業委託を行います。									
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業	地域課題対応その他事業						
		平成20年度	—								
地域の課題と現状		地域課題が複雑化・多様化している中で、区民目線での課題提起や解決に向けた取組提案は、的確な地域課題の把握や解決に向けた効果的な事業実施の観点から、必要性が高く、地域課題解決に向けた取組への区民参加促進の観点からも、重要性が高いです。									
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度			
		事業費	2,391(2,332)	2,122	2,391(2,169)	1,851	2,385	2,003	2,140	1,729	
		財源内訳	国庫支出金	0							
		市債	0								
		その他特財	0								
	一般財源	2,391(2,332)	2,122	2,391(2,169)	1,851	2,385	2,003	2,140	1,729		

計画 (Plan)	
事業の目的	市民活動団体等から、地域課題の解決に向けた事業提案を公募し、提案団体との協働により事業実施をすることで、地域課題の解決を図ります。
今年度の事業の取組内容	区計画等を踏まえながら、区の地域課題全般に関する事業を公募します。応募のあった事業について、学識経験者、行政職員で構成する審査委員会等において選考するとともに、採択された事業について、提案団体と区との協働により事業を実施します。

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った								
取組内容の実績等	令和3年度実施事業として5団体(新規3団体)から応募があり、外部委員を交えた審査会を経て4事業(新規2団体)が採択されました。新型コロナウイルスの影響により、当初予定していたとおり事業が実施できない団体もありましたが、提案団体、事業所管課と調整を図りながら、可能な事業内容に変更するなど、地域課題解決に資する効果的な事業を推進しました。									
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標				H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位
	1 活動指標	幸区提案型協働推進事業への応募団体数	目標	5	5	5	5	5	団体	
			実績	5	4	6	5	5		
	2 成果指標	幸区提案型協働推進事業の実施団体数	目標	5	5	5	5	5	団体	
			実績	4	4	5	4	4		
	3		目標							
			実績							
	4		目標							
			実績							

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	地域課題が複雑化・多様化しているため、課題解決に向けて継続的な取組が求められています。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) R 1 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	R1年度:令和2年度募集に向け、前年度実績を踏まえ、1事業当たりの予算額を原則「75万円以内」から「50万円以内」とし、より多くの提案事業が実施できるよう募集要項を見直しました。 H30年度:平成31年度募集に向け、バラムーメントの提案の促進を図るため、第2次審査時の審査基準を見直し、バラムーメントに関する提案については加点対象としました。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	地域課題が複雑化・多様化しているため、課題解決に向けた事業のニーズは高いと考えられます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	地域課題の解決に資する5件の実施事業があり、区民の参加と協働による地域課題解決に向けた取組意欲の向上へとつなげることができたと考えられます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	今後も、区民にとって提案意欲が高まる事業となるよう、地域の課題やニーズを把握するとともに募集要項等の見直しを図りながら事業を展開していく必要があります。また、提案事業については、委託契約により実施していますが、負担金への変更など改善の可能性があると考えられます。	

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	地域課題が複雑化・多様化している中で、地域の力による課題解決を推進していくため、地域の課題やニーズを把握しながら、募集要項等の見直し・改善を図り、提案を促進していく必要があります。

令和3年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	50	05	区の新たな課題即応事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			631650		まちづくり推進部 企画課		大野	62126	

事業の概要									
事業の概要		年度途中に発生する新たな課題に適切かつ迅速に対応し、課題解決に向けた取組を推進します。							
実施期間		事業開始年度 平成26年度		事業終了年度 —		予算中事業		区の新たな課題即応事業	
地域の課題と現状		区民にとって身近な区役所が、年度途中に新たに生じた地域課題等に対し、区長の権限で適切かつ速やかな対応を行っています。区企画調整会議を開催し、事業の必要性や方法などについて審議を行い執行しています。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	5,000	1,500	5,000	2,671	5,000	4,593	5,000	3,213
	財源内訳								
	国庫支出金								
	市債								
	その他特財								
	一般財源	5,000	1,500	5,000	2,671	5,000	4,593	5,000	3,213

計画 (Plan)	
事業の目的	年度途中に新たに生じた地域課題等に対し、適切かつ速やかに対応します。
今年度の事業の取組内容	年度途中に発生する新たな地域課題等に対して、区企画調整会議で事業の必要性や方法などについて審議し、対応します。

実施結果 (Do)							
上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等	①SDGs広告料(167,200円) ⑤隔離用パーティション購入費(730,400円) ②さいわい広報特別号配布業務委託料(668,250円) ⑥令和3年度 幸区役所婚姻届、台紙作成業務委託料(385,000円) ③幸区制50周年記念懸垂幕作成業務委託料(677,400円) ⑦市道古市場74号線の道路冠水対策工事補修工事請負費(803,000円) ④パラリンピック採火式パネル保護業務委託料(297,000円)						
数値で把握することが可能な取組	指標		H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位
	1	目標					
		実績					
	2	目標					
		実績					
	3	目標					
		実績					
	4	目標					
実績							

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	新たに発生する課題に適切かつ速やかに対応する必要があります。		
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) 平成 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)		
具体的見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載			
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	年度途中に発生する新たな課題に適切かつ速やかに対応する必要があり、事業のニーズは高いと考えられます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	関係部署と連携・調整を図りながら、迅速かつ適切に対応することができた区民の利便性向上を図ったことから、成果があったと考えられます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	即応事業費で対応すべき新たな課題について、適切かつ迅速に対応するため、今後も関係部署と連携して必要経費等を確認して執行していく必要があります。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性		
新たな課題に対して、財政局や関係部署と連携・調整を図りながら区民サービスに支障がないよう即時対応していくため、事業を現状のまま継続することが適切であると考えられます。また、即応事業費を執行した事業について、今後の継続的な取組や関連事業の必要性等を検証し、適正な予算要求に向けて関係課と調整を図っていく必要があります。		